

令和6年度 川崎市岡本太郎美術館

事業報告・評価書

(令和7年3月25日現在)

川崎市岡本太郎美術館

目 次

1	展覧会事業	
(1)	企画展	1
(2)	常設展	14
2	資料収集・整理、調査研究	20
3	作品の保存・修復、貸出	22
4	クラウドファンディング	23
5	普及企画	
(1)	教育プログラム	25
(2)	普及イベント	30
6	協働・連携	37
7	広報活動	39
8	施設・設備の整備	42

令和6年度事業経過・報告

1 展覧会事業

(1) 企画展

事業名	川崎市市制 100 周年記念展「生命の交歓 岡本太郎の食」
会期	令和 6 年 4 月 27 日（土）～7 月 7 日（日）（開催日数 70 日）
来館者数	入館者数：21,936 人（313.4/日） ※常設展来館者数含む
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	<p>岡本太郎にとって「食」とは、味わうことや、栄養をとるということだけではなく、食べる者と食べられる者との生命と生命のぶつかり合いであり、闘いとした生命を自身の身体に取り込む喜びであると考えていた。また、芸術は生活と一体であるべきと考えた岡本は、食卓などの家具やティーポットやグラスといった食器など、食の場で使われ生活にいろどりを与える作品の数々を制作した。さらに岡本は、書を絵付けした大皿や顔のある茶器など、岡本独自の感性とユーモアあふれる陶芸作品も手がけている。岡本はまた、国内外の食文化や食を支える市場に興味を抱き、取材に訪れる先々の市場に出かけ、そこに住む人々の暮らしや活気あふれる市場の様子など数多く撮影していた。</p> <p>本展では、「食」を切り口として、油彩、彫刻、陶器、インダストリアルデザイン、写真など、岡本太郎の多彩な作品を岡本の言葉とともに紹介した。さらに、両親の岡本一平・かの子と過ごした少年時代から、青年期を過ごしたパリ、そして戦後から晩年まで、岡本の食にまつわる資料を展示した。人生、芸術、そして食べることもまた闘いだと考えていた岡本太郎を「食」という視点から読み解く試みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食」を切り口とした企画展は今回が初めてとなる。岡本太郎の作品を幅広く紹介するとともに、岡本太郎の言葉や雑誌記事、レシピやプライベート映像などの資料を展示し、岡本の食に対する思想や考え方をわかりやすく紹介する。 ・父・一平や母・かの子に関する食にまつわる言葉や作品、資料を展示し、岡本太郎のバックボーンにも踏み込み、観覧者にわかりやすい紹介を行う。 ・岡本の陶器作品をまとめて紹介し、これまで紹介する機会の少なかった陶器作品の魅力を伝える。 ・ゴールデンウィークも会期に含まれることもあり、ホリデー中、会期を通してともに来館者に楽しんで頂けるイベントの企画を行う。
内容	<p>■展示構成</p> <p>第 1 章：岡本太郎と一平・かの子 第 2 章：パリ時代～戦後 第 3 章：生命の交歓 第 4 章：生活を彩る 第 5 章：岡本太郎の陶芸作品 第 6 章：旅と食 岡本太郎の写真</p> <p>■出品作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡本太郎作品：油彩、彫刻、インダストリアルデザイン、陶器、

岡本太郎撮影写真 他 約 150 点

- ・岡本太郎のプライベート映像、食に関わる資料など
- ・岡本一平、岡本かの子：作品・資料

■関連イベント

OTARO マルシェ at 生田緑地

4年ぶりに TARO マルシェを開催した。母の塔周辺でキッチンカーやテント販売を行い、「食」を体験いただいた。音楽・アトラクションステージや、作家・スタッフによるワークショップなども行った。

日 時 4月28日(日) 11:00~16:00

場 所 母の塔周辺

参加人数 850人

○パイラ人がやって来る?!

岡本太郎がデザインしたパイラ人のバボットを展示した。

パイラ人…映画『宇宙人東京に現わる』(大映/1956年公開)に登場する宇宙人。

日 時 4月27日(土)~5月6日(月) 10:00~16:30 (雨天中止)

場 所 カフェテリア TARO テラス席横

○カフェテリア TARO 企画展限定メニュー

*企画展限定メニュー

会期中に「岡本太郎の食」にちなんだ特別メニューを提供した。

内 容 コンソメスープ、クラフトビール、企画展限定メニュー(カリフラワのペペロンチーノ)

*毎日10食限定! TARO アフタヌーンティー

岡本太郎デザインのカップ&ソーサーで特別なティータイムをお楽しみいただいた。

時 間 11:00~(終了まで)

料 金 1,300円(税込)

内 容 ドリンク、サンドイッチ、ケーキ、豆菓子

提 供 数 229セット

○ミュージアムショップ

企画展と連携した商品(秋田のお菓子「炉ばた」等)を販売した。

○担当学芸員によるギャラリートーク

日 程 ①5月26日(日)、②6月15日(土)③6月30日(日) 14:00~

場 所 企画展示室

料 金 無料(要観覧料)

参加人数 ①40名、②40名、③52名

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】

- ・岡本太郎と「食」というテーマは意外性があったようだ。構成や解説など、わかりやすい内容を目指したが、岡本の言葉の紹介とあわせ好評をいただいた。
- ・一平やかの子について、書籍などから集めた言葉を紹介することができ、好評をいただけた。
- ・岡本の生前の食事風景や写真をスライドショーとして見せるコーナー、レシピを紹介するコーナーも好評で、展示されていない岡本のレシピが知りたいという問い合わせもあった。
- ・顔のグラスなどのノベルティグッズとしての作品を紹介し、岡本の作品が発表後現在まで日常生活の中に広がり、使用され愛され続ける魅力を持つことを紹介することができた。
- ・いままで一挙に出ることのなかった陶器作品をまとめて展示することが出来、岡本が制作した陶器作品について印象づけることが出来た。
- ・日本や外国に取材や旅行で訪れた際に撮影した食べ物や市場など、食にまつわる物や人々の生活などを写した写真をピックアップして紹介した。旅行先で集めた民芸品や、行きつけの飲食店のために制作したコースターなども併せて紹介できた。
- ・来館者に本展を楽しんでいただけるよう、会期中にパイラ人の展示や TARO マルシェ、ショップやカフェと合同企画を行うなど、関連イベントを数多く行うとともに、インスタグラムなど SNS で展覧会を紹介するなど、宣伝・広報にも努めた。
- ・「食」を切り口として、岡本の写真を日本国内を中心に約 50 点ピックアップし、訪れた場所がわかる地図や収集した民芸品と共に紹介。岡本の写真の新たな魅力を紹介することができた。
- ・指定管理者との合同企画として TARO マルシェを行った。キッチンカーの出店やステージで地域の団体によるダンスや演奏などを楽しんでいただくとともに、TARO 賞作家にも出店いただき、作品やグッズ販売、ワークショップなどを行った。イベントの参加者も多く、ご好評いただいた。
- ・パイラ人は雨天のため、平日の 2 日間展示することは出来なかったが、それ以外のゴールデンウィーク期間は展示することが叶い、多くの来場者にご覧いただいた。期間中は来場者によるパイラ人に関する SNS の投稿が盛んに行われた。
- ・ショップでは関連商品をいくつか置いていただき、会期終了前に完売する物もあった。カフェでは限定メニューの他、岡本の食器を使用したアフタヌーンティーを提供していただき、これまで行っていない特別企画を体験していただくことができた。
- ・インスタグラムでは展示で盛り込めなかった食に関する情報等、関連投稿を計 8 回発信した。
- ・陶器作品の魅力を身近に感じていただくため、作品の一部をケースに入れずに展示した。作品の固定や結界、注意表記などを普段より多めにするなど対策を行った。

【自己評価】 [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>本展では、「食」という新たな切り口で岡本太郎の作品の魅力や思想を紹介することを目的とし、来館者にわかりやすく親しみやすい内容とするよう努めたが、アンケートなどから目標を十分に達成することができたと思う。また本展では、作品だけではなく、岡本の言葉や岡本のレシピ、新聞、雑誌記事、プライベート映像、岡本一平とかの子の言葉など、岡本の食にまつわる関連資料を幅広く紹介し好評をいただけた。</p> <p>また本展に関連したイベントや関連企画を多数行い、いずれも好評をいただけた。SNS の投稿では、カフェのアフタヌーンティーは 18 万超、パイラ人は 32 万超のインプレッションがあり、通常より大きく上回る反応があった。</p>
----------	---

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食」という誰にとっても身近なテーマで、岡本太郎という作家への多角的なアプローチの道を拓いた。 ・「食」という、岡本太郎と切り離せないテーマであると同時に、アートに遠い人々でもアクセスしやすい、そしてアートに近い人たちにとっても案外意外なテーマを設定し、所蔵作品を含め、絵画作品、陶芸作品、プロダクト、写真、さらに雑誌記事などの関連資料を展示し、太郎の新たな魅力を紹介できた点を評価する。また、生きていくために欠くことのできないテーマであるため、太郎の人間味を感じることができた点もよかった。 ・「食」という親しみやすい、多様なアプローチが可能なテーマによって、幅広い世代に訴える好企画であった。関連イベントの充実や広報戦略が功を奏しており、今後こうした独創性のある企画を期待している。 ・日常生活に密着した「食」という切り口は、やはり、「岡本太郎美術館」という岡本太郎に特化した館ならではのテーマである。「食」というテーマを通じつつ、より深く、多面的に岡本太郎にふれる好機になったと考える。 ・太郎はひもじい思いをしたことはなかっただろうが、どうしても太郎が生きた時代の「食」の事情と付き合わせたくなる。「闘い」と表す「食」の事実は何だったのだろうか。兵役での「食う」闘いなどは。
---	--

事業名	川崎市市制 100 周年記念「芸術は、自由の実験室—夏のアートキャンプ」展
会期	令和 6 年 7 月 20 日（土）～9 月 1 日（日）（開催日数 36 日）
来館者数	入館者数：10,342 人（287.3/日） ※常設展来館者数含む
目標 （数値目標を示せる事業は記載）	<p>岡本太郎は、芸術は見るだけではなく全ての人の作るもの、自由な衝動のまま「勝手気ままに描ける」子どもたちだけでなく、「精神の皮が堅くなって」自分自身の「自由感」を忘れてしまった大人にも有効な、「自由の実験室」と述べている。</p> <p>本展は、岡本太郎現代芸術賞出身の 4 名の作家によるグループ展とした。舞踏のように大きく身体を使って弧を描くドローイングを重ねて制作する國久真有。思いつくかぎりの様々な身体的負荷をかけた絵筆「グングニル」を使い、制作を楽しむ園部恵永子。材木だけでなく漫画雑誌『ジャンプ』や日々の暮らしの日用品からも仏を彫り出す仏師、西除闇。麻を重ねた成型と素材を生かした彩色、乾漆技法を用い、人の佇まいや歴史を思わせる表現をダイナミックに見せる村上力。</p> <p>自在な発想と本気の遊びから生み出される彼らの作品とともに、会場での公開制作やアーティストトーク、多彩なワークショップなどを通し、子どもだけでなく大人も夏のキャンプのように身体を使って、自由にアートを体験する展覧会とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及企画のスタッフが担当する展示としては、現代美術の作家との企画展は初の試み。限られた予算の範囲で、夏休み期間にふさわしい体験型の展示内容を目指した展覧会とする。 ・岡本太郎現代芸術賞出身の作家のグループ展とし、公開制作やイベント開催もふくめて出品作家を検討を行い、来館者との交流を重視した内容とする。 ・公開制作やイベントの回数を重ねることで、作家と来館者との交流の機会を増やす

	<p>とともに、作家不在の際にも体験が可能なような仕掛けを検討する。</p> <p>・夏休み企画ではあるが、子どもに焦点を絞らず、より幅広い年代の来館者がそれぞれに楽しめる工夫を心掛ける。</p>
内容	<p>■展示構成・出品作品</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西除闇…………… 第26回太郎賞入選作、彫刻、写真 2. 園部恵永子……… 第24回入選作、絵画、映像、インスタレーション 3. 國久真有…………… 第22回特別賞受賞作、絵画、映像、ドローイング 4. 村上力…………… 第21回入選作、第23, 25, 27回特別賞作、彫刻、インスタレーション <p>■関連イベント</p> <p>○出品作家による公開制作</p> <p>会期中、出品作家が展示室で作品制作を行い、来館者との交流をはかった。</p> <p>日 時 國久真有 7/20, 21, 23～28、園部恵永子 7/20, 21, 28・8/10, 24・9/1 西除闇 8/3, 4, 14 ほか</p> <p>場 所 企画展示室</p> <p>料 金 無料（要観覧料）</p> <p>○不自由で自由な筆?! 『グングニル』をつくって描こう</p> <p>日 時 7月20日（土）13:30～15:00</p> <p>内 容 出品作家・園部恵永子と会期中に来館者が使用する“描きたいままに描けない仕掛けのある筆「グングニル」”を制作するワークショップ。最後に参加者は、出品作品《キャンバスツリー》に夏の生きものを描いた。</p> <p>講 師 園部恵永子</p> <p>対 象 小学生～大人 ※小学3年生以下は要保護者参加</p> <p>場 所 企画展示室</p> <p>料 金 無料（要観覧料）</p> <p>参加人数 5組（子ども5名、大人*付き添い含む7名）（先着順/電話受付）</p> <p>○オリジナル埴輪をつくろう! 真夏のコネコネはにわくしょっぷ ㄣ : ㄣ</p> <p>日 時 8月3日（土）①10:30～12:00 ②14:00～15:30</p> <p>内 容 埴輪好きの園部恵永子と、出土された埴輪を参考に自分だけのにはにわをつくるワークショップ。各にはにわは成形まで行い、出来たオリジナル作品を前方後円墳の絵の上に置いて鑑賞した。</p> <p>講 師 園部恵永子</p> <p>対 象 小学生～大人</p> <p>場 所 企画展示室</p> <p>料 金 500円+観覧料</p> <p>参加人数 ①5名（子ども5名、大人*付き添い含む11名） ②6名（子ども6名 大人*付き添い含む12名）（先着順/電話受付）</p> <p>○私の「バベルの塔」をつくろう</p> <p>日 時 8月4日（土）①10:00～11:30 ②13:30～15:00</p> <p>内 容 出品作家の村上力によるワークショップ。麻布を使った彫刻技法で、オリジナルの「バベルの塔」をつくった。</p> <p>講 師 村上力</p> <p>対 象 小学生～大人 *小学3年生以下は要保護者同伴</p> <p>場 所 企画展示室</p>

料 金 500 円＋観覧料
参加人数 ①16 名（子ども 9 名、大人 7 名）②16 名（子ども 8 名、大人 8 名）
(先着順/電話受付)

○出品作家によるリレートーク&サンバと夕陽会による即興演奏会

日 時 8 月 10 日（土）リレートーク 14:00～ 演奏会 15:30～
内 容 本展出品作家 4 名によるリレートークと、西除闇によるサンバ「辺境の
トロピカリズモ」と國久真有の参加バンド「ハードコア夕陽会」による
演奏会を展示室内で開催した。
ト ーク 西除闇、園部恵永子、國久真有、村上力
演 奏 サンバ（西除闇ほか 13 名）、夕陽会（國久真有ほか 7 名）
場 所 企画展示室
料 金 無料（要観覧料）
参加人数 リレートーク：61 名 演奏会：114 名（申込不要）

○今日の夕陽を振り返る会

日 時 8 月 11 日（日）14:00～15:00
内 容 國久真有がメンバーである「ハードコア夕陽会」による映像投影とアン
ビエントミュージックの即興演奏会を行った。
演 奏 西除闇、國久真有ほか
場 所 企画展示室
料 金 無料（要観覧料）
参加人数 182 名（申込不要）

○オリジナル楽器をつくって鳴らそう“シキシキ町のまつりごと”

日 時 8 月 14 日（水）14:00～15:30
内 容 身の回りにある日用品などを使って、サンバのパーカッション（タイコ、
ガンザ）をつくるワークショップ。最後には、つくった楽器を鳴らして
館内を練り歩く演奏会を行った。
講 師 西除闇
対 象 小学生 *小学 3 年生以下は要保護者同伴
場 所 企画展示室
料 金 無料（要観覧料）
参加人数 5 名（子ども 5 名 大人*付き添い未就学児含む 6 名）（先着順/電話受
付）

○サマー・アートスクール

日 時 ①8 月 25 日（日）②9 月 1 日（日）各回とも 13:30～14:15
内 容 長年中学校で教鞭をとる村上力の作家の視点からみた①「阿修羅像」②
「ピカソ」についての授業を行った。
講 師 村上力
対 象 小学 5 年生～大人
場 所 企画展示室
料 金 無料（要観覧料）
参加人数 ①65 名 ②76 名（申込不要）

○来館者参加型作品

内 容 4 名のアーティストの展示エリアに、参加して楽しめる仕掛けを随所に
設けた。さわれる作品、記念撮影コーナーや、作家の制作を追体験でき

参加型作品	<p>るエリアなど、来館者参加型作品として、沢山の方に好評を頂いた。</p> <p>西除闇「EM-MER 被る仏」</p> <p>園部恵永子「なかまをふやそう！真夏のグングニル体験～いきもの編」 (7月20日15:00～9月1日)</p> <p>國久真有「身体から生まれる円を描いてみよう」(7月30日～9月1日)</p> <p>村上力「木製玩具で遊ぼう」</p>
場 所	企画展示室
料 金	無料(要観覧料)
申 込	不要
<p>○ミュージアムショップ</p> <p>出品作家によるミニ作品(埴輪の焼き物等)の販売を行った。</p>	

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】

《成果と課題、今後の対応》

- ・出品作家との調整や協力を得て、公開制作やワークショップ、演奏会などイベントを数多く盛り込んだ企画とした。作家不在の際にも楽しめるよう、常時誰もが参加できる体験作品やコーナーを設けたことで、家族やグループで長時間にわたって会場で楽しむ姿を多く見かけた。幼児から年配の方まで多様な来館者に楽しんで頂ける展示となった。
- ・夏休み企画の広報の一環として、近隣小学校での各戸ちらし配布(約10,300枚)など、周知を強化したことが功を奏して、イベント申し込みの反応も非常に良かった。事前申し込みのワークショップは少人数制でもあり即日満員となったが、受付終了後にも参加希望の問合せもかなりの件数があり、人気イベントの場合は申込方法の見直しも検討したい。
- ・本展は、夏休み期間に生田緑地に来る家族連れを取り込む目論見であったが、今夏の酷暑のため緑地への来園者は激減し、予想より集客は難しい面があったものの、頻発したイベントの効果もあり一日平均287名と来館者数はまずまずだった。
- ・近年の猛暑で夏は創作アトリエでのイベント開催が難しくなっており、館内でイベントが可能な場所の確保が課題の一つとなる。今回は、展示室でのイベントを試験的に実施し、照明や来館者の導線確保といった課題も見えたが、今後の夏の展示やイベント企画のあり方を模索できた。

【自己評価】[A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>夏休みの普及的な展覧会として、家族連れなど幅広い世代に楽しんでもらうことを目的に工夫を行い、作家不在でも体験できる作品の設置や、作家ごとの公開制作、ワークショップ、演奏会、講座等といった多様なイベントにも重点を置いて手厚く実施した。結果として、来館者の滞空時間が長く、幼児から年配者まで幅広い層から好評を頂くことができた。</p> <p>展示としては、平面と立体作品、鑑賞型と体験型を合わせた構成としたことでダイナミックな空間が実現できたが、会場では、作家と来館者が交流する場が頻繁に見られ、アンケートや来館者のSNS等でも伺うことができた。</p>
---	---

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み期間の企画として、来館者参加型作品などにより親子で楽しむことができる内容として工夫が凝らされており、来館者層を広げることにもつながったと考えられる。 ・ 夏休みの期間に合わせ、普及企画担当が中心となり実施し、記録的な猛暑の中にも関わらず、多くの来館者を迎え、岡本太郎現代芸術賞受賞作家を紹介し、彼らが展開する多様なアートの世界を子どもから大人まで紹介できた点を評価した。また「生きて」いて、美術館への貢献心が高い参加作家と丁寧にコミュニケーションをとり、彼らの特長を活かしたプログラムを多彩にデザイン・実施し、来館者に生のアート体験を提供したことも評価したい。 ・ 岡本太郎賞とゆかりのある現存作家による展覧会は、作家が制作する姿に接する機会の少ない人（とくに子どもたち）には大変よい体験であると思われる。 ・ とても多面的な展開で構成された事業だと捉えている。来館者の興味、趣向は多種多様であり、それをすべて画一的に満足させることができないが、こうした多面性を備えた企画は、さまざまな刺激を来場者にもたらし、かつ新たな来館者の掘り起こしにもつながったと思う。 ・ 誰も岡本太郎になれるというマジックで夏休みの子どもたちに合せた参加型の取り組みにも太郎の精神は有効であることが証明されている。太郎賞の作家にとって 2 度目の挑戦はよいモチベーションになる。普及企画の視点も大切である。
---	---

事業名	川崎市市制 100 周年・開館 25 周年記念「岡本太郎に挑む 浅井裕介・福田美蘭」展
会期	令和 6 年 10 月 12 日（土）～令和 7 年 1 月 13 日（月・祝）（開催日数 80 日）
来館者数	入館者数：29,411 人 （367.6 人/日）
目標 （数値目標を 示せる事業は 記載）	<p>川崎市市制 100 周年、そして当館の開館 25 周年を記念して、浅井裕介（1981-）と福田美蘭（1963-）の 2 人の現代作家による展覧会を、常設展示室と企画展示室の双方を使い開催する。</p> <p>浅井は土、水、埃、小麦粉、テープ、ペンなどの身近な素材によって、あらゆる生物の根源を想起させるような神話的世界を描く画家である。展覧会が開催される各地で採取した土を絵具にし、現地の人々と協力して巨大な作品を制作するなど、土地に根ざした作品を手掛けることでも知られている。</p> <p>福田は、芸術や文化、現代社会への批評的まなざしを可視化する画家である。綿密なりサーチと福田ならではのウィットに富んだ視点に基づく作品たちは、鑑賞者に物事へ対する新たな視点をもたらす。今回は、福田いわく「生真面目」な岡本に、全点新作で挑む。</p> <p>本展では、アートシーンの第一線で活躍する 2 人の作家が、岡本太郎と関連付けた自作を企画展示室に展示する。本展のために、浅井は川崎市内で採取した土を絵具にして巨大な新作を制作する。福田は新作を展示するほか、岡本の作品によるインスタレーションを展開する。また、常設展示室では、二人の作家がそれぞれ独自の視点で選んだ当館収蔵の岡本太郎作品を紹介する。</p> <p>芸術一家に生まれ、青年時代に哲学や民族学を学んだ岡本太郎は、執筆活動で自身</p>

	<p>の思想を深めながら、絵画・彫刻・工芸・デザインなどの既存の枠組みを超えて活躍をした。本展は、そうした岡本の表現・思想の多面性を、世代や表現方法の異なる 2 人の現代作家の視点で見直すとともに、互いに触発しあうことで見えてくる三者それぞれの新たな一面をお見せする機会とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本展の開館 25 周年と同時に市制 100 周年を祝うものであることから、展覧会の開催前から市民の祝福の機運を高めることができるよう、会期前の関連事業の実施を計画する。また会期前の関連事業は生田緑地や川崎市と当館の結びつきを印象付けるものとするので、当館が人々にとってより身近な存在に感じられるようにする。 ・2 人の現代作家の作品をそれぞれ展示するだけではなく、両者に岡本太郎作品を選定いただき、作品についてコメントをいただく。学芸とは異なる視点から所蔵作品を紹介することで、現代作家の眼から「岡本太郎」を紐解くことを目標とする。 ・会期中は作家本人との交流の機会を設けるほか、展示内容を担当がかみ砕いて紹介するイベントを開催することで、様々な来館者にアプローチすることを狙いとする。
<p>内容</p>	<p>■出品作家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅井裕介 <ul style="list-style-type: none"> 1981 年、東京都生まれ。1999 年、神奈川県立上矢部高等学校美術陶芸コース卒業。近年の主な個展に「浅井裕介展 星屑の子どもたち」(金津創作の森美術館)「なんか/食わせろ」(ANOMALY、2020 年)、「浅井裕介—絵の種 土の旅」(箱根彫刻の森美術館、2015-2016 年) など。国内外の芸術祭、アートフェス、グループ展に参加し、積極的に作品を発表している。2019 年に「第 68 回 横浜文化賞 文化・芸術奨励賞」を受賞。 ・福田美蘭 <ul style="list-style-type: none"> 1963 年、東京都生まれ。1987 年、東京藝術大学大学院修士課程修了(大沼映夫教室)。1989 年、具象画の登竜門とされた安井賞を最年少で受賞。以後、国内外で精力的に作品を発表する。近年の主な個展に、「福田美蘭展 千葉市美コレクション 遊覧」(千葉市美術館、2021 年)、開館 35 周年記念 特別展「福田美蘭—美術って、なに?」(名古屋市美術館、2023 年) などがある。 <p>■展示構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示室 <ul style="list-style-type: none"> 岡本太郎作品 約 140 点(平面、彫刻、ドローイング、写真など) ※うち、浅井氏と福田氏が選んだ作品は約 70 点 ※一部の作品は、作家のコメントと一緒に展示。 ・企画展示室 <ul style="list-style-type: none"> 浅井裕介作品 25 点(平面、立体、インスタレーションなど) 福田美蘭作品 15 点(平面、インスタレーションなど) 岡本太郎作品 約 30 点(平面、立体、写真など) ※福田美蘭によるインスタレーション内で展示の作品を含む <p>■関連事業・イベント</p> <p>○浅井裕介 作品制作ボランティア活動</p> <p>期 間 8 月 20 日(火)～9 月 29 日(日)(休館日を除く 23 日間)</p>

内 容	浅井氏の新作制作を補助するボランティアスタッフを募った。
対 象	以下の条件を全て満たす方。18歳以上で、ボランティア活動の趣旨を理解し、作家の制作に関心があり、展覧会を応援していただける方（ただし、保護者同意のもと、高校生以上も参加可とする）／川崎市岡本太郎美術館に通える方／複数日参加可能な方／連絡のための固定電話や携帯電話（メールアドレス）を所有している方
特 典	2回参加ごとに、浅井氏のオリジナルシールを1枚贈呈。5回以上の参加者にはレセプションの招待状を、10回以上の参加者には本展チケット10枚を贈呈した。
参加人数	44名（延べ参加人数 158人）（web受付）
○浅井裕介 新作制作のための土募集	
期 間	8月1日（木）～9月16日（日・祝）
内 容	浅井氏の新作の材料となる土を川崎市内から募った。生田緑地内で本展と同時開催の「全国都市緑化かわさきフェア」とも連携した。
依 頼 先	建設緑政局緑化フェア推進室、建設緑政局生田緑地整備事務所、市内市立小学校。なお、依頼先には、関係団体へ土募集の周知を依頼した。
提供件数	27件
○浅井裕介：公開制作	
日 時	9月22日（日・祝）13:30～15:30
内 容	企画展示室にて浅井氏が作品を制作する様子を一般に公開した。
会 場	企画展示室
料 金	無料（要観覧料）
対 象	どなたでも（小学生以下は要保護者）
参加人数	216名（申込不要）
○ワークショップ「はじまりのゲー」	
日 時	10月27日（日）10:00～11:30
内 容	陶芸土を利用し、手のひらをぎゅっと握りしめて「はじまりの彫刻」を作った。
講 師	浅井裕介
会 場	創作アトリエ
対 象	小学4年生以上
料 金	500円＋観覧料
持 ち 物	汚れてもいい服装、タオル、飲み物
参加人数	11名（抽選/web受付）
○ワークショップ「美術館と生田緑地のお散歩」	
日 時	10月27日（日）13:30～15:00
内 容	自然や生命をテーマに創作する浅井氏と美術館や生田緑地のなかを散

歩するイベント。浅井氏の話聞きながら、歩いた場所について考察、記憶し、自然のなかで時間を共有した。

講 師 浅井裕介
会 場 館内、生田緑地内
対 象 高校生以上
料 金 500 円+観覧料
持 ち 物 歩きやすい服装と靴、タオル、飲み物
参加人数 17 名（抽選/web 受付）

○浅井裕介と担当学芸員によるギャラリートーク

日 時 11 月 2 日（土）15:00～16:00
会 場 企画展示室
対 象 どなたでも
料 金 無料（要観覧料）
参加人数 209 名（申込不要）

○担当学芸員によるギャラリートーク

日 時 ①11 月 24 日（日）②12 月 7 日（土） 各日とも 14:00～
会 場 企画展示室
料 金 無料（要観覧料）
参加人数 ①75 名②51 名（申込不要）

○フォレストアートフェスティバル in ラダック 2024 報告会 vol.3「浅井裕介 創作の旅ーインド・ラダックから岡本太郎美術館まで」

日 時 12 月 14 日（日）14:30～16:30
内 容 浅井氏が、NPO 法人ウォールアートプロジェクトの取り組みに参加し、今夏にインド・ラダックにて初めて制作した3つの地上絵について報告するイベント。インド滞在中から構想を練り、準備を始めていた岡本太郎美術館での新作制作について、展示室で作品を鑑賞しながらトークを行った。
登 壇 者 浅井裕介、おおくにあきこ（NPO 法人ウォールアートプロジェクトアートディレクター）、浜尾和徳（NPO 法人ウォールアートプロジェクトディレクター）
会 場 ガイダンスホール、企画展示室
対 象 どなたでも
料 金 無料（要観覧料）
参加人数 64 名（先着順/メール受付）

○ミュージアムショップ

出品作家の関連グッズ（ポストカード、版画作品、展示に使用した縄文土器クッションカバー、ハンカチ、書籍、カタログ等）を販売

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】

- ・本展は会期前に3つの関連事業を実施した。「浅井裕介 新作制作のための土募集」では、展覧会開催期間と同時期に全国都市緑化かわさきフェアが生田緑地内で開催されることから、緑化フェアの市の担当部署に協力を要請したほか、近隣の学校・施設等に学芸が伺い、土を採取させていただく等、川崎市全土から広く土を集めた。作品と馴染みある土地を結びつける事業であることから、採取地の関係者をはじめとする市民へのアピールに繋がった。
- ・浅井氏の作品制作に参加したボランティアスタッフのなかには、当館に来るのは初めてという方も多くいた。活動を通して当館が好きになったという方も多く、ボランティア活動の終了後、展覧会の会期中も友人や家族を連れて何度も来館して下さる方もいた。
- ・会期前に開催した関連事業は、事業そのものを参加者の方に楽しんでいただけただけでなく、展覧会や美術館そのものの広報にも繋がったと思われる。展覧会の内容にもよるが、企画展と閉幕から次の開幕まで期間が空く場合は、こうした事前の事業の開催を心がけたい。
- ・アンケート等によると、出品作家による岡本太郎作品の解説が好評だった。学芸とは違う目線からの解説だったこと、また、出品作家のそれぞれの着眼点の違いが分かる内容であったことが好評に繋がったと考えられる。作家の負担が重くなってしまいう企画ではあるが、今後もこうした学芸以外から見た岡本太郎作品の見どころを紹介する機会を適宜設けたい。
- ・会期中は浅井氏によるトークイベントと、学芸によるギャラリートークを開催した。作家本人の話が聞けるということで、浅井氏の会場内でのトークイベントはかなりの盛況であった。そのため、混雑のため参加者と作品の距離が近くなりすぎてしまうことが多々あった。作品の安全を保つため、通常時とは異なるイベント用の会場整備方法の検討が必要と思われる。
- ・会期中は、通常の宣伝投稿とは別に、作品解説をInstagramで計9回投稿した。今回は展示室内に学芸による解説を掲示しなかったため、投稿がその代わりとして機能した。解説文がかなり長くなってしまい投稿が見づらくなることも多々あったため、今後のInstagramの投稿においては、親しみやすくかつ端的な文章を心がけたい。

【自己評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>本展は、新聞・雑誌・テレビ等で約30回取り上げられ、来館者数も3万人に迫るなど、当館の25周年を祝うにふさわしい盛況さであった。展示の内容も、岡本太郎を起点とすることで出品作家2名の新境地を紹介することができただけでなく、岡本太郎自身を新たな視点で捉え直すことができた。また関連事業も、この展示限りではなく、今後の来館者増に繋がるものを実施でき、今後の当館の活動をさらに勢いづけていく一助となったと思われる。</p>
---	---

【外部評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅井裕介・福田美蘭という二人の作家の視点による作家として岡本太郎への理解が深まる内容だった。特に、浅井裕介作品によって、地域との連携が強く意識された点は高く評価できる。 ・周年記念展として、国内外で高い評価を受ける二名の現代美術家を招聘し、「二人展」という難しいキュレーションを岡本太郎を軸として成立させた点を評価する。特に
---	---

	<p>今回は、福田が全点新作を制作し、アート表現を通して岡本太郎と紡いだ対話を鑑賞者に見せるというスリリングな体験を楽しむことができたこと、浅井が土を集め、ボランティアスタッフと制作し、上によって鑑賞することができた巨大絵画が印象的だった。福田の作品を全て購入・寄贈で収集できたとのことなので、今後の活用に期待したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅井祐介、福田美蘭という現在活躍し、注目を浴びている二人の展覧会は、調整等難しい点多かったと察するが、展覧会として大変興味深く、また浅井作品制作にあたって多くのボランティアが参加したことは、特に評価したい点である。 ・非常に妙味のある作家の取り合わせで、会場も「静」と「動」が溶け合う空間になっていた。ともに岡本太郎をなぞりながらも、岡本太郎に対する解釈を異質なかたちで表現できた。また、こうした事業を通じて、作品収集事業に成果を得たことも評価できる。 ・「太郎賞」の作家とは違う熟練作家の「挑戦」の方法に期待感があった。福田は父親の眼、あるいは家族としての眼を通して太郎を見ているところがあって面白い。浅井のバイタリティも太郎の視界を超えていた。図録も分かりやすくまとめられていた。
--	---

事業名	「第28回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）」展
会期	令和7年2月23日（日・祝）～令和7年4月13日（日）
来館者数	会期終了後、記入します。
目標 （数値目標を示せる事業は記載）	「岡本太郎現代芸術賞」展は、岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するため設立された。今年で28回目をむかえる本賞を通し、21世紀における芸術の新しい可能性を探り、意欲的な作品を紹介する。
内容	<p>第28回TARO賞には、579点の応募があり、24名の作家が入選した。</p> <p>最終審査の結果は下記の通り。</p> <p>岡本太郎賞：仲村浩一《房総半島勝景奇覧/千葉海岸線砂旅行》</p> <p>岡本敏子賞：齋藤玄輔《語り合う相手としての自然》</p> <p>特別賞：井下紗希《森を歩くこと。》</p> <p>入選：IWACO、大岩美葉、神村あづさ、木原健志郎、黒田 恵枝、斎藤翼、陳昱如、土田祐加、どばしほのか、西野萌黄、英ゆう、濱本菜花、前田明日美、増田充高、丸山千香子、武藤攝、毛利華子、望月章司、矢成光生、山下茜里、山田 歩</p> <p>会期中は関連イベントとして、来場者による展示作品の人気投票、来場者から作家への「お手紙プロジェクト」を実施予定。また、入選作家によるリレートークを会場内で開催し、その様子は、後日当館公式YouTubeチャンネルにアップする。</p>

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は応募方法を郵送応募のみの対応としたが、応募総数に大きな変化はなかった。 ・展示設営は作家自身に行ってもらうため、作品の展示方法や設営の手順について、メールや電話で密に連絡・調整し、円滑に運営することができた。 	

- ・今回は遠方在住の作家が多く、事前の現地での下見や打ち合わせ、イベントへの参加等、複数回美術館に来館することに負担を感じる作家もいたようだ。今後は応募要項などに複数回来館する必要がある旨を明記することが望ましいと感じた。
- ・搬入・設営については、美術館の高所作業用の備品の取り扱いに不慣れな作家も多いため、今後はより詳細なマニュアルの配布を検討したい。

【自己評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>作品の展示設営については、作家を2グループに分け、日程を分散させている。例年、後半の日程に集中しがちであるため、今年度は、展示品が多い作家や高所作業が多く伴う作家については、前半の日程を強く勧めた。その結果、バランスよく日程を分散させることができ、展示設営を概ね時間内で終えることが出来た。</p> <p>また、近年、作家自身の SNS からの情報発信が活発になってきているため、広報印刷物の配布のタイミングや、ポスター画像データの提供を早めに行い、入選者からも展覧会について積極的に広報してもらうことを心がけた。</p>
---	--

【外部評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28回にわたり、新たな表現の可能性を積極的に評価してきた同展の意義は大きく、若い作家にとって大きな目標の一つになっていると思う。ただ、簡単なことではないとは思っているものの、若い作家への経済的な支援がより一層充実することが望まれる。 ・まだリアルに展覧会を見ることができていないが、今年度も多くの応募があり、ネットや SNS の記事を見るに、この賞がアートを志す人たちが目指す一つのサミットとして未だ存在していると感じられる。多様な応募者の多様な作品を展示としてまとめるには、美術館が見えないところでさまざまなサポートを提供することが必要不可欠で、それがしっかりと行われている点を評価したい。 ・毎年、出品者が意気込んで臨む TARO 賞展では、さまざま調整は難しいと思うが、日程調整については昨年度の課題を改善されていることは評価できる。作家来館経費などが課題として挙げられているが、この点については周知などに努めていきたい。 ・長年にわたって継続してきた事業ではあるが、これが社会的に浸透し、それが進むことによって、より高質な作品を選定することに結びついていると感じる。入選者の展示・撤去などにかかわる経費負担を軽減する方策の実行は重要であり、これは応募動機や若手アーティストの育成、支援とも関連する重要な検討事項である。 ・記者発表・内覧会を設けることによって作家に直接取材できる好い機会になり、作家の制作のモチベーションを探る意味で有益である。
---	--

(2) 常設展

事業名	「前衛たちの足跡 岡本太郎とその時代」展
会期	令和6年4月18日(土)～7月7日(日)

<p>目標 (数値目標を示せる事業は記載)</p>	<p>岡本太郎は、18歳の時に東京美術学校（現・東京芸術大学）を中退し、両親の渡欧についてパリに渡る。20代を過ごしたパリでは、現地で抽象芸術グループ「アブストラクション・クレアション」に最年少で加わり、バタイユの主宰する「アセファル」にも参加するなど、先鋭的な芸術や思想的なグループで交流を深めた。</p> <p>帰国後の兵役を経て、戦後の東京で前衛芸術運動を展開する皮切りとなった「夜の会」は、花田清輝ら文学者たちとの活動である。ここからさまざまな芸術運動が生まれ、作家たちが集う場となった。岡本太郎はジャンルを横断する自由闊達な活躍で、生涯弟子などを取らず、群れることを嫌う孤高のアーティストという横顔もあるが、それぞれの時代をみていくと多くの芸術家や作家、思想家から触発され、そうした仲間たちとの交流や繋がりの中で、作品が生まれてきた側面もまた強い。</p> <p>本展は、当館のコレクションや資料から、岡本太郎と、交流のあった同時代の作家たちの活動の一端を紹介するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芥川紗織生誕100年のプロジェクト「Museum to Museums」企画の一環として要請があった芥川紗織作品の展示協力を行う。 ・普段は展示する機会が少ないコレクション内の関連作家と資料の活用を図るため、岡本の同時代作家の作品をできるだけ多く紹介する。
<p>内容</p>	<p>■展示構成</p> <p>1章 パリ時代 2章 戦後のアヴァンギャルド 3章 前衛たちの展開</p> <p>■出品作家</p> <p>岡本太郎、アブストラクション・クレアションの作家たち、クルト・セリグマン、下郷羊雄、池田龍雄、勅使河原宏、北代省三、山口勝弘、福島秀子、芥川紗織、村上善男ほか。</p> <p>■出品作品</p> <p>油彩、版画、水彩、ドローイング、写真、彫刻、映像、資料ほか 約100点</p> <p>■関連イベント</p> <p>○担当学芸員によるギャラリートーク</p> <p>日 時 6月22日（日）14：00～ 場 所 常設展示室 料 金 無料（要観覧料） 参加人数 67名（申込不要）</p>

<p>【実施状況・成果・課題と今後の対応等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館コレクションの範囲から、岡本太郎と同時代の作家たちによる作品と資料を紹介し、パリ時代から戦後1960年まで、岡本周辺の前衛芸術の流れを概略で紹介する展示構成とした。 ・芥川紗織生誕100年のプロジェクトの一環で展示した芥川作品とともに、岡本と芥川の当時の交流についても8mm映像や写真、資料等で補足紹介を行った。同プロジェクトのちらしやメディアでの紹介など広報的なメリットも感じられた。

・あくまで収蔵品の範囲内での紹介となるため、展示構成の流れを辿る上では不足や偏りがあることは否めず、予算的に可能であれば一部を他館から借用して構成することも検討したい。

【自己評価】 [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>芥川紗織生誕 100 年のプロジェクトに協力することで、収蔵資料の見直しと再調査を行う良い機会となった。他館との連携という面や広報的な利点もあり、ショップでの関連刊行物の売行きも良かったと聞いている。</p> <p>同プロジェクトに対応した関連テーマとして組立てた常設展だが、日頃は出品しにくい岡本以外の作家の収蔵品を本展では十分に活用できたと考える。映像や写真、当時の刊行物などの資料類を多く紹介することで、作品の不足を補足するとともに、同時代の人の繋がりを映像や写真等で視覚的に伝えられる展示にできた。</p>
---	---

【外部評価】 [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡本太郎という作家の出発点といえる時代について丁寧に紹介し、美術史上の位置づけを改めて確認することに加え、「芥川（間所） 紗織プロジェクト」にも参加した企画であり、美術館としての調査・研究のレベルの高さと広がりを示す内容だった。 ・ コレクションの活用と、芥川紗織生誕 100 年のプロジェクトへの協力を連携させ、なかなか紹介につながらなかった岡本太郎と同時代の作家を紹介し、広報的効果も上げることができた点を評価する。また、ギャラリートークへの参加者も多いことから、展覧会への興味関心が高いことが窺える。 ・ 岡本太郎の交流の広さは同時代研究のうえでも大変重要である。既存の岡本太郎イメージにとらわれないためにもこうした展示を増やし、より魅力ある岡本太郎の人物像を紹介されるのを楽しみにしている。 ・ 収蔵作品を幅広く活用することは重要であるが、個人の名を冠した美術館においては、なかなか難解な課題ともなる。岡本太郎という素材をいかに活かしつつ、彼個人の作家としての歩みを追うだけでなく、こうした同時代へのまなざしも、多くの示唆を得るものであり、その後の展開もまたテーマになり得ると感じた。 ・ 太郎の画業を語るときは必ずこの時代の原点を振りかえることになるので、時々テーマを変えてこの時代を取り上げるのがいいのではないかと思う。
---	--

事業名	「目もあやなオバケ王国 岡本太郎のオバケ論」展
会期	令和 6 年 7 月 12 日（金）～10 月 6 日（日）
目標 （数値目標を 示せる事業は 記載）	オバケの姿は日本人の自由な発想力が源であると考え、日本文化としてのオバケに関心を抱いていた岡本太郎。オバケの存在証明はナンセンスであり、彼らは人間が社会の抑圧に負けない心として表われ、人間から切り離せない影のような存在だと考えていた。人間の身分に構わずいたずらをしかけ笑い飛ばすオバケ。これを日本人の誇り得るものの一つであると、岡本は述べている。

	<p>岡本の作品には人間の内にある真の姿として、オバケのようなキャラクターがたびたび現れる。岡本の冷静かつ無邪気な目線から表現された世界では、ほとんど妖怪に近い姿をなした生き物が駆け回り、生を哄笑する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本展では岡本が語るオバケの存在に焦点をあて、オバケ同様に既存の体制に抗いながらも愛嬌ある作品を生み出し続けた岡本の、少し怖い絵から、おなじみの愉快的な彫刻、収集品など、岡本が作り出した鮮やかなオバケ王国をご覧ください。 ・昨年のスポーツ展が季節ものとして報道に受けたことをふまえ、テーマに「オバケ」を扱うことで、話題性を狙う。夏休み期間にかかるため、子ども連れの家族が楽しめる展覧会にする。
<p>内容</p>	<p>■展示構成</p> <p>第1章：岡本太郎とオバケ 第2章：日本文化におけるオバケ 第3章：見つめるオバケ 第4章：目もあやな人間王国</p> <p>■出品作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡本太郎作品：油彩、彫刻、インダストリアルデザイン、陶器、岡本太郎撮影写真 他 約 100 点 ・岡本太郎の収集資料など ・岡本一平、岡本かの子作品 <p>■関連イベント</p> <p>○担当学芸員によるギャラリートーク</p> <p>日 時 ①9月8日(日) ②9月16日(月・祝) 各日とも14:00～</p> <p>場 所 常設展示室</p> <p>料 金 無料(要観覧料)</p> <p>参加人数 ①26名 ②40名(申込不要)</p>

<p>[実施状況・成果・課題と今後の対応等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始当初は「オバケはどこですか」という質問が多くでたため、掲示物や参照資料を増やし、来館者の理解を促した。その結果、この件の問い合わせはなくなった。 ・お子様が、一部の背の高い展示物が見れないという声があったため、安全性と他の来館者の観覧を妨げないよう配慮しつつ、踏み台を用意した。 ・展示テーマが低年齢層には難解であることが予想されたため、別途に低年齢層向けのキャプションを配置することで、お子様や家族連れの方にもお楽しみいただけた。 ・低年齢の来館者の一部には怖いという印象を与えることもあったようで、親しみやすい掲示物のデザインを心掛けた。 ・図録が欲しかったというご意見もいくつかいただいたため、持ち帰りが可能な低コストで制作できる資料等を今後検討していきたい。
--

【自己評価】 [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>岡本太郎のオバケについての思想は、岡本太郎の芸術論にも深くかかわっていると考え、資料をもとに考察を行うことが出来た。テーマに話題性を狙った結果、SNS のインプレッションも高く、複数件取材の依頼をいただいた。家族連れも多く来館頂くことができ、低年齢層キャプションをみて、家族で楽しめる姿が見受けられた。来館者の意見をキャプションや掲示物によって早急に対応し、来館者に満足いただける展示になった。</p>
---	---

【外部評価】 [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み期間の展示として、企画展と連動して親子で楽しむことができる内容となっており、「オバケ」という子どもたちの興味を引く言葉を用いたタイトルで内容の楽しさを的確にアピールしている。 ・ 夏休みに親子で楽しめるテーマとして、岡本太郎も関心を寄せた「オバケ」を設定したことで、コレクションを再解釈する機会となった。子どもたちが多く来館することで起こる課題にフレキシブルに対応したことも評価できる。 ・ 「オバケ」という一見、親しみやすくわかりやすいと思われるテーマを通じて、岡本太郎の文化や社会に対する考え方を示されることは大変興味深い。今後もさまざまな独自の切り口から岡本太郎の思想を紹介していただきたい。 ・ この事業については、そのネーミングが「おやっ？」というひっかかりをつくりだす面白さを秘めている。オバケという言葉がもっているとてもたくさんの意味を、人はそれぞれに自由に想起し、自由に展開する。そうした、人間の興味や好奇心を喚起しつつ、内容を吟味した、楽しい企画だと捉えている。 ・ オバケは太郎自身の姿として来場者に印象づけられたのではないだろうかと思う。
---	---

事業名	「私の現代芸術—コンペイ党宣言」展
会期	令和 7 年 1 月 18 日（土）～4 月 13 日（日）
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	<p>1961 年、岡本太郎は戦後から自らの作品発表のベースとしていた二科会を脱退。戦後から 1950 年代に仲間とおこした前衛芸術運動は長くは続かず、二科会内での改革も横やりが入り、歩調を合わせた運動にさえ迷いをもった 1960 年代。本展は岡本自身の作品発表や作風、スタイルも大きく変化した転換期に刊行された著作『私の現代芸術』に焦点を当て、同時代の作品とともに岡本の言葉にも注目して展示を行うもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1963 年刊行の『私の現代芸術』（新潮社）を軸にして、岡本太郎の著作の引用と絵画・彫刻をあわせて紹介する。 ・ 岡本太郎の言葉は若い世代に人気が高いため、第 28 回太郎賞展の時期の常設として、二科会脱退後の覚悟と気概にあふれた魅力的な岡本の言説にも焦点を当てる。
内容	<p>■展示構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 油彩（1960 年代を中心に前後も含む）、版画、彫刻、陶磁、インダストリアルデザイン他 約 100 点 ・ 岡本太郎『私の現代芸術』から抜粋・引用した岡本の文章を、モニターやプロジ

	<p>ェクターで投影して紹介する。</p> <p>■関連イベント</p> <p>○担当学芸員によるギャラリートーク</p> <p>日 時 3月8日(日) 14:00～</p> <p>場 所 常設展示室</p> <p>料 金 無料(要観覧料)</p> <p>参加人数 37名(申込不要)</p> <p>○とことこ美術館ツアー&ワークショップ「色や形をみて・つくって!とげとげいきものをつくろう」</p> <p>日 時 3月23日(日) 11:30～</p> <p>場 所 常設展示室・創作アトリエ</p> <p>対 象 3歳以上の未就学児のお子さんご家族</p> <p>料 金 300円+観覧料</p> <p>参加人数 5組(子ども6名 大人4名)(先着順/電話受付)</p>
--	--

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・1960年代の作品とあわせて、モニターとプロジェクターを多用して『私の現代芸術』からの岡本太郎の言葉を展示の中で紹介した。言葉の抜粋は、流すだけの単調な映像にならないよう、スクロール表示の仕方や動きに変化をつけ、映像編集スタッフとともに工夫を凝らして制作した。 ・受付看視スタッフより、年間パスポート利用のリピーターからも展示に関して好評の声があったこと、来館者の滞空時間が長く熱心な鑑賞者が多いという報告もたびたび受けた。 ・アンケートやSNS等を見ても大多数は好評の声が目立ったが、切り文字等のほうが展示としては一般的であるため、文章の抜粋をモニターで流すことの違和感をアンケートに記した方もいた。 ・『私の現代芸術』は絶版で来館者の入手が難しいため、ミュージアムショップでは別の書籍で言葉の紹介をするなどの対応をお願いした。

【自己評価】 [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>1960年代の作品を中心に前後の時代の作品を並置し、言葉と作品を工夫して対置させたことで、岡本の人となりや時代性が伝わりやすい構成となった。常設展ながら取材依頼も複数あり、取材記事や展覧会欄にも取り上げて頂けたことで、常設展のみの期間でも一定数の来館者があった。岡本太郎の言葉は力があり魅力的であることから、若い層を中心に会場内で足を止めて見入る来館者の姿をしばしば見かけ、アンケート等からも満足度の高さがうかがえた。</p>
----------	---

【外部評価】 [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前衛たちの足跡 岡本太郎とその時代」展に続く時代の岡本太郎の足跡をたどる展示であり、年間をとおして来館することで、岡本太郎という作家を深く知ることができる。また本展に限らず、展覧会タイトルが親しみやすいと同時に内容への興
----------	--

	<p>味を引くものであり、工夫が凝らされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ展覧会を見ることができていないが、岡本太郎現代芸術賞と同時開催ということから、1960年代という岡本太郎の気概に満ちた時代の作品に焦点を当てるというコンセプト設定や、岡本太郎の著作に影響を受けている大学生など若い世代が増えているという状況を踏まえ、太郎の言葉を映像で紹介するチャレンジなど、常設展示だからこそトライできることにトライしていることを評価したい。 ・作家の言葉に注目した展覧会ということだが、展覧会の名称のほか、言葉の見せ方にもプロジェクターやモニターを使用され、効果的な展示になっていた。こうした工夫が来館者の満足度にもつながっていると思われる。 ・作家の言葉を引用し、これを会場構成に取り込む工夫が随所にみられ、会場に動きをもたらすとともに、「言葉」への個人的で独特な解釈が、鑑賞者の心の中に生じることが、展覧会の鑑賞体験の意味合いを深めるとともに、来場者の思考にいくつものスイッチを配することになるのだろうという期待感をもった。 ・「コンペイ党（金平糖）」という言葉に時代を感じさせる。
--	---

2 資料収集・整理、調査研究

事業名	資料収集・整理、調査研究
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・岡本太郎・一平・かの子に関連する資料、ならびに岡本太郎と同時代に交流のあった作家の作品資料を収集する。 ・岡本太郎、関連作家による寄贈資料について、整理と調査研究を進める。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・岡本太郎作品と関連の深い作品資料の収集。 ・岡本太郎に関連したインダストリアルデザイン、グッズ等も収集する。

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】
<p>[資料収集]</p> <p>○令和6年度購入予定資料（令和7年2月時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福田美蘭《森の掟》2024年、パネル、アクリル絵具、h181.2×w259.0cm <p>○令和6年度寄贈予定資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡本太郎作品および関係資料一式（富和氏寄贈） ・福田美蘭 開館25周年記念展出品作品等一式（作家寄贈） <ul style="list-style-type: none"> 《7歳のときの落書き》1970年、紙・色鉛筆、14.0×20.0cm 《太陽の塔のスタンプ》2024年、ゴム・鉄・プラスチック、15.0×8.0×8.0cm 《黒い太陽》2024年、書籍（岡本太郎『黒い太陽』美術出版社、1959年）20.5×22.0×2.0 《国宝火焰型土器》2024年、カラー写真3点・クッションカバー 各40.3×28.8、41.0×36.0×39.0 《重工業》2024年、複製画（紙に印刷、鉛筆）、24.5×19.5 《日本経済新聞2024年9月29日》2024年、新聞（紙、オフセット印刷）、10.5×9.7 《日本経済新聞日曜版カット「この人の描いた絵画を思い浮かべて下さい」》2024年、トレーシングペーパー・画用紙・鉛筆・アクリル絵具、27.0×39.0 《朝日新聞写真館 since 1904 芸術家の日常》2024年、ガア公を模した置物（ベニヤ、アクリル絵

具)・新聞・人工芝、200.0×200.0／[ベニヤ板] 28.0×24.5×14.5／[新聞] 54.0×40.5
 《視線》2024年、新聞(紙、オフセット印刷)・プリント(合成紙、インクジェットプリント)
 [新聞] 54.0×40.5、[プリント] 180.0×131.5
 《太郎の墓》2024年、印画紙にデジタル銀塩プリント・アクリル絵具、162.0×113.4
 《夜》2024年、パネル・アクリル絵具、65.1×96.2
 《太陽の顔・桃太郎 金太郎 浦島太郎》2024年、陶器・パネルにアクリル絵具
 [陶磁] 各13.0×13.0×4.0、[パネル] 各59.4×42.0
 《眼の絵画》2024年、鳥よけバルーン21点(ビニール)、500.0×500.0×500.0
 《輪投げ》2024年、輪投げの輪160本(プラスチック)、サイズ可変
 《邂逅》2024年、ドローイング21点(トレーシングペーパー、鉛筆)・足跡(カッティングシート)
 [ドローイング] 各29.7×42.0、[床面] サイズ可変
 《朝日新聞2024年11月19日》2024年、新聞(紙、オフセット印刷)

[資料整理と調査研究]

・今年度は年間計画の通り、岡本太郎半切プリント制作、岡本太郎撮影フィルム、北代省三撮影フィルム及び、岡本太郎関連映像を中心に、デジタル化業務と整理作業を進めた。

【自己評価】[A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

A	<p>[評価の理由]</p> <p>今年度秋季に開催した開館25周年展に出品された福田美蘭氏の作品全点を、作家からのお申し入れを頂き、購入と寄贈により収蔵することができなかった。岡本太郎から触発されて生まれた作品群であり、岡本作品と呼応する作品であるため、今後も当館の常設展の中でも活用できる資料となる。また岡本太郎作品及び関係資料一式は、岡本太郎のアシスタントの方からインダストリアルデザイン等を寄贈頂き、いずれも展示に活用できる資料を収集することができた。</p> <p>資料整理と調査研究については、優先順位をつけながらデジタル化業務などを進め、予定していた作業を進めることができた。</p>
---	---

【外部評価】[A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡本太郎だけでなく、関連する作家・作品、時代状況など広く捉えて、質の高い事業の実現につながっている。 ・「岡本太郎に挑む 浅井裕介・福田美蘭」展で新たに制作された福田美蘭の作品が収蔵できたこと、太郎のアシスタントからのご寄贈により過去の太郎作品の充実が図られたこと、どちらも非常に意味のある資料収集であるが、それらは当事者とのやり取りを進める美術館の努力の賜物でもある。見えない部分の努力を高く評価したい。 ・岡本太郎とその両親の作品・資料にとどまらず、太郎に触発されて制作された作品の収集は、今後の活動にとっても重要な要素になっていくと思われる。資料整理や調査研究は継続が重要となるため、計画的な事業計画とそれに基づく実施をこれからも続けていただきたい。
---	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の購入予算の確保、そして寄贈の受け入れという体力があることを実績表をみて感じた。購入予算の金額的多寡はわからないが、明確な収集方針にそって事業展開ができたこと、さらに、展覧会事業の延長線上で作品収集が生じたことは、大きな実績であるとする。 ・ 福田美蘭の作品の購入と寄贈は嬉しい。
--	---

3 作品の保存・修復、貸出

事業名	作品の保存・修復、貸出
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所蔵作品及び資料の保存・管理業務を適切に行う。 ・ 館内の良好な環境を維持する。 ・ 所蔵作品及び資料について、当館の展示や他館への貸出の調整を適切に行う。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所蔵作品・資料について状態調査や作品調書整備等の管理業務を定期的に行い、作品・資料の状態を把握する。 ・ 所蔵作品・資料について作品修復業務、燻蒸業務など適切に処置する。 ・ 環境調査、酸アルカリ調査、温湿度調査、収蔵庫とその周辺の清掃作業など環境整備を定期的に行う。 ・ 所蔵作品・資料について状態の確認をし、保存及び作品の状態を考慮した貸出を行う。併せて当館での展示に支障が生じないよう貸出の調整を行う。

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】
<p>[作品貸出]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡本太郎『OKAMOTO』、岡本かの子『生々流転』を「日本が見たドニ ドニの見た日本」展（会期：令和6年8月27日（火）～10月20日（日）会場：新潟県立近代美術館、会期：令和6年11月2日（土）～令和7年1月13日（月祝）会場：久留米市美術館）に貸出 ・ 岡本太郎《双子座》を「おしゃべり美術館一ひらびーあ一つま～れ10年記念」展（会期：令和6年9月21日（土）～令和7年2月16日（日）、会場：平塚市美術館）に貸出 ・ 岡本太郎《顔》（彫刻）、北代省三《『月に憑かれたピエロ』のための仮面スケッチ》を「ハニワと土偶の近代」展（会期：令和6年10月1日（火）～12月22日（日）、会場：東京国立近代美術館）に貸出 ・ 山口勝弘《黒い太陽—岡本太郎に捧ぐ》を環境芸術学会企画展「つながりと発見」展（会期：令和6年12月8日（日）～12月15日（日）、会場：水戸市民会館）に貸出 ・ 岡本太郎《建設》《赤》《訣別》（油彩、ドローイング5点）《月の壁》、岡本太郎撮影写真12点、岡本太郎旧蔵メキシコ民芸品2点、資料写真2点、芥川（間所）紗織《顔》計26点を企画展「メキシコへのまなざし」（会期：令和7年2月1日（土）～5月11日（日）、会場：埼玉県立近代美術館）に貸出 ・ 岡本太郎《記念撮影》を「生誕100年中村正義—その熱と渦—」展（会期：令和7年2月22日（土）～3月30日（日）会場：豊橋市美術博物館、4月12日（土）～5月18日（日）平塚市美術館、5月31日（土）～7月6日（日）会場：奈良県立美術館）に貸出 <p>[作品修復]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋外作品《母の塔》内部の調査・整備を行う。彫刻作品《太陽の鐘》について、画面洗浄、欠損部充

填、補彩等を行う。油彩作品の額装の修復を行う。

【自己評価】 [A :十分に達成 B :概ね達成 C :達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>今年度は、開館 25 周年記念展「岡本太郎に挑む 浅井裕介・福田美蘭」展のなかで、両氏が選定した岡本太郎作品を常設及び企画展示室にて多数展示した。そのため、本展の会期中及びその前後の期間の出品依頼については特に調整が難しかったが、出品依頼者と綿密に貸出作品の調整を重ね、貸出を行うことができた。断らざるを得ない依頼もあったが、25 周年展や常設展の担当者と調整を重ね、貸出を円滑に行うことができた。</p> <p>屋外作品の《母の塔》については、前年度に引き続き整備を行う。彫刻作品の《太陽の鐘》については、表面の汚れが目立っていたため、汚れを落とすとともに、創作時の状態になるよう補彩等を行う。</p>
---	--

【外部評価】 [A :十分に達成 B :概ね達成 C :達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術館としての基盤を支える基本的な事項について、継続的かつ的確に実施されている。 ・ 多数の貸し出し依頼と、館の展覧会との調整を綿密に行い、太郎作品の公開を促進したこと、修復が必要な作品への適切な対応を評価する。 ・ 作品の管理、処置が適宜行われているようだが、収蔵品の活用という点では、貸出業務も重要である。屋外彫刻は、定期的なメンテナンスが不可欠となるため、計画的な整備継続を期待している。 ・ 作品の保存・修復には大きな経費を要するが、これも予算との見合いであるだけに、一気にすべてを解決することができないので、今後も計画的に、また緊急性も鑑みながら、適切な対応をしていただくことを期待する。また貸出事業も多くの手間暇がかかることから、そうした負担を館内で応分に分かち合える環境醸成をのぞみたい。
---	--

4 クラウドファンディング

事業名	クラウドファンディングを活用した視覚障害者向け取組
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市が推進する「アート・フォー・オール（誰もが文化芸術に身近に触れ参加できる環境づくり）」の実現に向け、ガバメントクラウドファンディングを活用し、視覚に障害を持つ方を対象に、安心して岡本太郎美術館に来館いただき、太郎作品に親しむ機会を提供する3つの取組を行う。 ①「美術館案内パンフレット」の作成 ②「太郎作品紹介カード」の作成 ③専用機器による「鑑賞体験イベント」開催 ・ クラウドファンディングの目標額は、1,200,000円とする。
内容	○クラウドファンディング

	<p>ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング®のサイトを利用 寄附期間：4月2日（火）～6月30日（日）90日間 目標額：1,200,000円</p> <p>○3つの取組</p> <p>①「美術館案内パンフレット」の作成 点字・触知図を利用した案内用パンフレットを300部作成し配布 配布先 近隣の盲学校、川崎市視覚障害者情報文化センター 他 *美術館にて希望者に配布</p> <p>②「太郎作品紹介カード」の作成 立体的に印刷できるプリンタを購入し、常設展に出展される岡本太郎作品から5作品を選び紹介するカードを作成。点訳ソフトを用い解説文を作成し、紹介カードと併せてファイリングしたものを希望者に貸出</p> <p>③専用機器による「鑑賞体験イベント」開催 視覚支援デバイス「レティッサ オン ハンド」を使った、ロービジョンの方（見えにくさがあり生活上の不自由さを感じる方）向けの鑑賞プログラム「みんな生き生き TARO アート鑑賞」を実施。（協力：株式会社 QD レーザ）</p> <p>日 時 11月9日（土）①10：30～12：00 ②13：30～15：00 定 員 ①4組 11名 ②2組 4名</p> <p>○ 寄附者特典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お礼状の送付 ・特別内覧会への招待 日 時 10月11日（金）15：15～ ・特別バックヤードツアーへの参加 日 時 11月30日（土）16：30～18：30 4組7名 3月8日（土）16：30～18：30 4組7名
--	--

[実施状況・成果・課題と今後の対応等]	
	<p>クラウドファンディングは、76名の支援者より計1,279,000円の寄附を頂き、目標額の1,200,000円を達成して終了した。これにより、当初、目標とした3つの取組すべてについて実施可能となった。案内パンフレットについては近隣の盲学校や川崎市視覚障害者情報文化センター等に10月初旬に配布し、開館25周年記念「岡本太郎に挑む 浅井裕介・福田美蘭」展から館内でも配布を開始した。また、作品紹介カードについても同展より貸出を開始し、ロービジョンの方向けのイベントを実施した。</p> <p>寄附の特典として一万円以上寄附いただいた方を招待した特別内覧会では、26名の出席があり、案内パンフレットと作品紹介カードの紹介、及びQDレーザの協力により視覚支援機器の体験会を実施した。また、企画展のプレス向け内覧会と同日に行ったため、取材記者にも取組内容を周知するとともに、視覚支援機器を体験いただけた。また、三万円以上寄附いただいた方向けに収蔵庫の見学や閉館後の展覧会を観覧いただけるバックヤードツアーを実施し、参加者には好評を得た。また、寄附金に余剰が生じたため視覚障害者等の触覚鑑賞や作品の理解を深めるツールとして《こどもの樹》のレプリカを作成予定である。</p>

【自己評価】 [A :十分に達成 B :概ね達成 C :達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>目標額としていた寄附金を集め、予定していた3つの取組についてすべて実施することができた。また、視覚障害者団体やボランティア活動をしている方にも、美術館の取組を認知してもらうことができ、問い合わせや見学に来ていただくなど関心を持ってもらうことにつながった。</p>
---	---

【外部評価】 [A :十分に達成 B :概ね達成 C :達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 画期的な試みであり、他の美術館・博物館の模範となる内容である。 ・ 美術館初の取り組みだったが、広報と連携し、76名の支援者から目標額を超える成果を挙げ、それによって、太郎作品へのアクセスを高めるための3つの取組が実現できることとなったことを高く評価したい。なお、会議でもお伝えしたが、高額支援者のための対面でのプログラムをできれば、週末に設定し、週中働いている人にも参加できるようにしてもらえたらと思う。 ・ 近年、美術館・博物館におけるクラウドファンディングが注目されるが、成功例ばかりでなく、課題含みの例も多く聞かれる。そうしたなか目標額に達し、予定事業が行えたことは評価できる。今後も継続を検討されるのであれば、クラウドファンディングへの過剰期待や予算的依存、職員の業務負担の増加には配慮も必要と思われる。 ・ クラウドファンディングは、諸刃の剣であるだけに、今後も実施するようであれば、慎重に取り組んでいただければと考える。ただし、今回のように目標額を達成できたという背景には、岡本太郎美術館への厚い信頼感、また期待感があることの証左であると思う。多くの人たちの信頼を、今後も様々な場面で得ていただきたい。 ・ 今後重要な取り組みになると考える。
---	--

5 普及企画

(1) 教育プログラム

事業名	普及企画
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育と連携し、学校現場の実情や、要望を踏まえた鑑賞プログラムにより教育普及活動を推進する。 ・ 近隣の大学、専門学校、幼保・小中高等学校、地域商店街などと連携した事業を行い、地域との交流を深め美術館事業の活性化につなげる。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校等の団体見学、校外授業のカリキュラムに応じたガイドや鑑賞活動を行う。 ・ 教育機関で活用する教材の開発や貸出、活用例の紹介、出張授業を行う。 ・ 教育関係研究会、研修会等における講師の招聘を通じてより多くの教育機関と連携、協働した美術館活動を行う。 ・ 大学生、高校生をインターン生として美術館イベントに参加させるとともに、自らが考え、すすんで行動する自主性を重視した活動を行う。

【実施状況・成果・課題と今後の対応】

《実施状況》

団体見学

学校団体や教育機関による鑑賞学習やグループ学習を、対象年齢や学習目的に応じて先生と話し合いながら行うもの。団体の受け入れについては、展示室の広さを考慮し、一回の受け入れ人数を 80 人として 45 分間の鑑賞ツアーを実施している。鑑賞プログラムは、対話型の“森の掟コース”、ワークシートを活用する“こどもの樹コース”、教員主導の“太陽の塔コース”を基本としている。

＜今年度見学団体＞ (2025. 3 月末見込み数)

幼稚園・保育園	6 団体	261 名
特別支援学校	8 団体	125 名
小・中学校	65 団体	5,874 名
高校・大学	18 団体	419 名
その他	7 団体	85 名

＜R5 年度＞ (2024. 3 月末)

幼稚園・保育園	2 団体	116 名
特別支援学校	2 団体	52 名
小・中学校	28 団体	2,868 名
高校・大学	13 団体	329 名
その他	8 団体	438 名

(資料) 令和 5・6 年度見学団体統計表

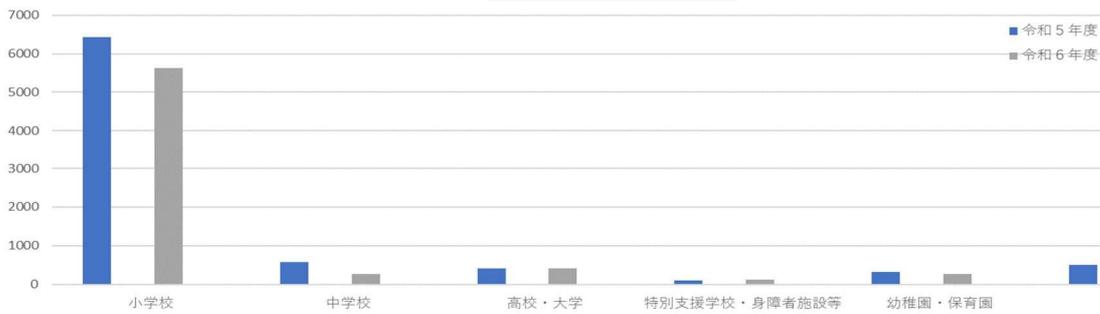
【令和 5 年度学校受入数】

月	小学校		中学校		高校・大学		特別支援学校・ 身障者施設等		幼稚園・ 保育園		その他		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	0	0	0	0	1	121	0	0	0	0	1	8	2	129
5月	2	169	1	245	1	19	0	0	1	99	0	0	5	532
6月	8	1026	0	0	1	73	1	14	0	0	0	0	10	1113
7月	0	0	3	93	3	66	0	0	0	0	2	81	8	240
8月	0	0	3	53	7	50	0	0	1	17	5	349	16	469
9月	10	1269	1	13	0	0	1	38	0	0	0	0	12	1320
10月	7	810	1	79	0	0	1	19	3	144	1	10	13	1062
11月	6	751	4	32	1	44	0	0	1	30	1	5	13	862
12月	9	839	2	41	1	43	0	0	0	0	0	0	12	923
1月	7	688	2	11	0	0	1	6	0	0	1	18	11	723
2月	6	545	2	12	0	0	1	18	0	0	1	12	10	587
3月	3	330	0	0	0	0	1	5	1	23	1	11	6	369
合計	58	6427	19	579	15	416	6	100	7	313	13	494	118	8329

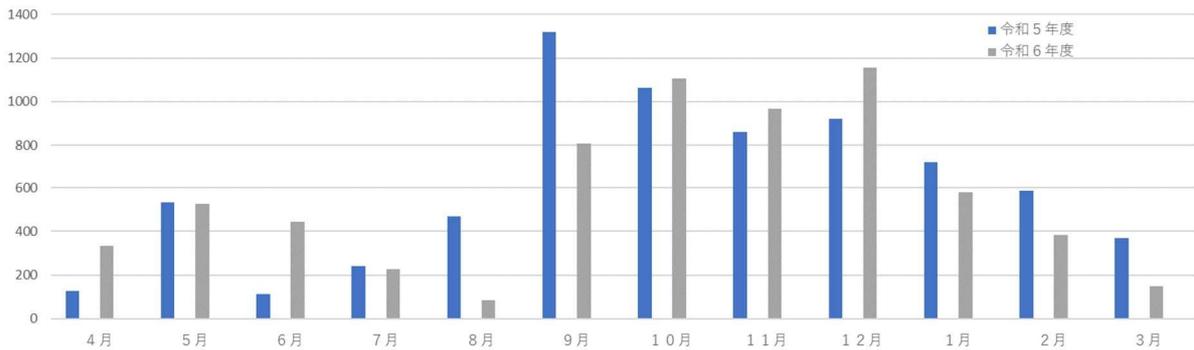
【令和 6 年度学校受入数】 (3 月末見込み数)

月	小学校		中学校		高校・大学		特別支援学校・ 身障者施設等		幼稚園・ 保育園		その他		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	2	221	0	0	1	112	0	0	0	0	0	0	3	333
5月	2	287	0	0	1	22	3	54	2	160	1	4	9	527
6月	4	376	0	0	3	46	1	24	0	0	0	0	8	446
7月	2	145	3	41	0	0	1	7	1	9	1	24	8	226
8月	0	0	1	19	8	67	0	0	0	0	0	0	9	86
9月	5	789	1	17	0	0	0	0	0	0	0	0	6	806
10月	8	929	3	130	1	11	0	0	1	29	1	6	14	1105
11月	7	823	4	40	1	27	1	2	2	63	1	11	16	966
12月	9	1042	0	0	2	115	0	0	0	0	0	0	11	1157
1月	7	541	2	9	0	0	1	19	0	0	1	10	11	579
2月	4	355	0	0	0	0	1	19	0	0	1	10	6	384
3月	1	110	0	0	1	19	0	0	0	0	1	20	3	149
合計	51	5618	14	256	18	419	8	125	6	261	7	85	104	6764

団体別利用人数



月別利用人数



教材貸出 (76件) 2月23日時点

岡本太郎紹介ビデオ・DVD、作品をプリントしたカード (A5 サイズ・A3)、岡本太郎の「遊ぶ字」をプリントしたカード (A3) 他、「《太陽の塔》授業セット」「《明日の神話》授業セット」(作品画像岡本太郎が作品制作をしている様子のわかる写真や関連作品などをA3サイズにプリントしパウチ加工した20画像のセット)に加え、B倍サイズの大型作品の貸し出しも行っている。下見の際、貸出教材の紹介を必ず行い、それらを活用した事前学習を勧めている。作品をA5サイズにプリントしたアートカードの貸し出しが多くみられるが、市外や県外からの貸し出し希望も受けている。授業のねらいに合わせた教材を選び、活用されていることを感じる。さらに、昨年度、美術館に関心を持ち、より親しみやすくなるように作り替えたマナーDVDも新たに作成、また昨年度より作成に取り掛かっていたA3パウチ加工「こどもの樹セット」「作品とシャンケンセット」も完成し、活用している。彫刻作品の3D画像については現在、授業の中で効果的に活用してもらうことができるように検討を重ねている。

オンライン教材 どこでも TARO アトリエ

「どこでも TARO アトリエ」は、令和2年のコロナ禍による緊急事態宣言下に、自粛期間を自宅で過ごす多くの方へ向けて、来館しなくても自宅で岡本太郎の作品を楽しんでもらえるように始めたコンテンツである。好評だったワークショップ等から、子どもから大人まで気軽に楽しめるアイデアを紹介し、遠方で来館が難しい方など、気軽に岡本太郎作品に親しむことができるように、現在も「どこでも TARO アトリエ」の公開・更新は継続している。市内の学校現場での利用のほか、市外からも授業での活用例がある。また文科省の学習支援ポータルサイト「どこでもまなび隊」から依頼をうけ、コンテンツ掲載されるなどの広がりも出ている。

配信開始：令和2年4月19日(日)～現在継続公開中

職場体験(5校)

中学・高校生に美術館の運営についてその目的や内容を幅広く学んでもらうための活動。学芸員、教育普及、施設管理、受付・看視、ミュージアムショップの仕事等を体験する。また、受け入れ期間によっては、ワークショップの手伝いも行う。

今年度は、1日コースの体験を3校、2日間コースの体験を2校で実施した。事後、活動の振り返りや感想の手紙が届けられたが、作品にかかわる多様な仕事のやりがいや苦勞、働くことの意義等を学び取り、加えて芸術の楽しさや魅力も味わっていることが感じられた。

高校インターン(2校)

美術館での仕事を実体験を通して、そこで働く人や来館者と接し、美術館の持つ役割や目的、機能を知るとともに社会的なルールやマナーを学ぶ目的で行っている。今年度は、高校2校の体験希望があり、夏季休暇中に2日間、3名の参加者があった。学芸員の仕事、受付・看視の仕事、施設管理の仕事、普及の仕事を経験した。普及の仕事では、普及イベント(中学生の宿題手伝いますツアー)の手伝いも行った。また、普及企画が担当した参加型の展覧会、川崎市制100周年記念「芸術は、自由の実験室ー夏のアートキャンプ」展を実際に見て、聞いて、体験し、感じたことをそれぞれがレポートにまとめる活動も行ってもらった。作成したレポートは、企画展開催期間中、ギャラリースペースに展示し、来館者にも読んでいただいた。

教員職場研修(1件)

岡本太郎や作品についての説明と貸出教材を利用した授業の進め方のレクチャーを、小学校・中学校の先生方に行い、岡本太郎の啓蒙と、美術館の教材を使用したアート活動を知ってもらうことを目的としている。川崎市小学校図画工作科研究会夏季実技研修を美術館で行い、展示室での鑑賞活動、アートカードゲームなどを行った後、表現活動を創作アトリエで実施した。今年度は、夏の企画展示として「芸術は、自由の実験室ー夏のアートキャンプ」展で作家の公開制作を間近で見学したり、参加型イベントでアート体験も楽しんだりしていただいた。美術館を身近なものとして感じていただき、川崎市美術館活用の鑑賞教育について共に学ぶ場を持つことができた。

視覚障がい団体向け対応(2件)

クラウドファンディングをきっかけに、視覚障がいの団体の来館や事業協力の相談があり、鑑賞サポートとして絵画彫刻作品解説とデザインの椅子で身体で作品鑑賞する約20分の内容のツアーを提案するなどしている。また、地域の学校関連との協力関係の中で、ブラインドコミュニケーターを招いた鑑賞会の企画にも対応した。

《成果と課題、今後の対応》

・学校団体の受入れ人数に関しては、昨年度同様に一般来館者との兼ね合いを図りつつ鑑賞環境を整え、適切な美術鑑賞を行っている。前期に受け入れた見学団体件数、人数については、いずれも、昨年度より減った。昨年度は、コロナ禍が落ち着き、校外活動が広がり始めた年ということもあり、近場の美術館を利用される学校団体が多かったのではないかと考える。今年は、校外活動を精選して実施されることが伺われる。しかし、はじめて美術館を利用されるという学校団体も数校あり、鑑賞プログラムを通して、今後継続した利用につなげていきたい。これまで数年間、継続して実施されてきたところは、今年度も美術館を活用されている。後期、10月以降は利用団体が増え、年間を通しての団体件数は、昨

年度に近い件数まで伸びた。今年度、団体件数が減った要因の1つには、来館の交通手段の状況も影響していると考えられる。来館された学校現場の先生方に校外学習の実施状況について伺うと、交通手段をバスで実施の場合、すぐに予約を取ることが難しいとのことだった。また、校外活動費が限られている中で、交通費の値上げにより来館を断念されたところもあった。特別支援学校の団体利用が増えている。障がいについても多様な教育的ニーズを抱えている児童・生徒の方々が来館された。聾学校の利用については、学校の先生と相談し、職員のガイド内容を先生が手話で補い、協力して実施した。多様なニーズに合わせた鑑賞プログラムの在り方をさらに検討していきたい。

・「職場体験」「インターンシップ」については、今年度も夏の高校生のインターンシップの受け入れをはじめ、秋から冬にかけて中学校・高校の職場体験を実施した。遠方で来館が難しい中学校や高校を対象とした職業講話の実施も含め、次年度も継続して中学生・高校生のなりたい自分の姿の後押しをするプログラムの実施を継続していきたい。

・「どこでも TARO アトリエ」など、コロナで来館できない時期に実施した事業だが、現在は市内だけでなく、市外においてもホームページを通じて学校教育現場で利用がある。また、文科省サイトに掲載され、より多くの方に目に触れるきっかけとなっている。オンラインコンテンツの閲覧や利用を広げるとともに、来館につなげるイベントも引き続き検討していきたい。

【自己評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	<p>これまで同様に一般来館者との兼ね合いを図りつつ鑑賞環境を整え、適切な美術鑑賞を行えた。学校団体の受入れ人数に関しては、校外活動の縮小やバスの値上げ、運転手不足などといったいわゆるバスの2024年問題が要因で、受入れ件数は昨年度から14件、人数は約1500名減となった。しかしこれまで来館があった学校からも、教材貸出の依頼があったことから、引き続き地域の芸術家・偉人として岡本太郎を取り扱っている様子は伺えた。また近隣の横浜市・大和市・町田市や他県の学校からも複数の希望があることから、学校授業の中で岡本太郎を取り扱う件数は増加していると感じている。</p> <p>中学校・高校に向けた事業についても適切な対応を行った。中・高生は、学校単位での活用は難しいが、部活動などでの来館、「職場体験」「インターンシップ」で、美術館に携わる様々な職業を知る事で職業に対する視野を広げ、またそれぞれの職員と一緒に仕事場に立ち専門性を感じられるプログラムを行っている。生徒達の反応は良く、体験後、美術館に対する興味がより深まった様子が事後レポートから感じられる。</p> <p>コロナ禍で減少していた特別支援学校も年々数を増やしている。なかなかマニュアル化できる対応ではない中で、それぞれに合った対応配慮をしているため、再開継続に繋がっている。また、昨年美術館が行ったクラウドファンディングにより視覚障がいや様々なケースのインクルーシブ教育への対応が増えている。それに対しても可能な限り美術館として協力を行った。</p>
---	---

【外部評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた人員ではないかと推察されるが、質の高い内容で極めて積極的に実施されており、「A」以上の評価に値する。 ・ミッションと対象者によって「普及企画」を、主に学校を対象とした「教育プログ
---	---

	<p>ラム」、一般の方々に向けた「普及イベント」の二つに分類し、評価するデザインにしたことで、自己・外部評価両方の解像度が上がる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムとしては、バス問題などで参加者が減少したとあるが、周辺市からも参加者があるなど、着実に裾野を広げており、国内外の美術館の中でも、トップクラスの学習支援実績を挙げていると言える。教育普及のミッションは岡本太郎の哲学を体現する活動なので、ぜひ今後も挑戦を続けて欲しい。 ・教材貸出と研修受け入れ、また障がい者団体向け対応などに加え、コロナ禍の教訓からオンラインによる教材発信など多様なプログラムを行っていることは評価できる。より幅広い世代の来館につながるような流れを作っていただきたい。 ・児童、生徒の受け入れ、またアプローチについては、十分な手厚さを感じる。美術や文学、音楽や演劇などの表現行為は、言葉を超えて世界とつながり、言葉を越えた共感を生み出すことを、美術館という施設から伝えていくことができれば、とても素晴らしいことと考える。益々の発展を祈念し、期待している。 ・現場に即した事業の積み重ねが大切であると考えている。
--	---

(2) 普及イベント

事業名	普及企画
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人まで幅広く参加でき、美術や岡本太郎の芸術に親しめるイベントやワークショップ等を開催していくことで、「多くの人に開かれた美術館」というイメージの定着を図るとともに、より地域に根ざした美術館としての役割をはたす。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・展示内容に合わせて、幅広い層の来館者に対応する体験型のイベントや、年齢に応じたワークショップなどを工夫して開催することで、来館者のニーズに沿っていく。 ・イベントと連動した企画展など、教育普及に比重をおいた展覧会を開催することで、新たな層に向けた芸術に触れる機会を増やす。

[実施状況・成果・課題と今後の対応等]	
<p>《実施状況》</p> <p><TARO 鯉にいどむ！ in ラゾーナ川崎プラザ></p> <p>日 時 4月13日(土) ①10:00～11:10 ②12:30～13:40 ③14:30～15:40</p> <p>展示期間 4月24日(水)～5月6日(月祝)</p> <p>内 容 恒例となった出張ワークショップ「TARO 鯉に挑む！」を川崎駅に隣接しているラゾーナ川崎プラザ5階の野外スペースで行った。普段、美術館に行く機会が少ない方達にも、岡本太郎美術館の周知につながった。</p> <p>場 所 ラゾーナ川崎プラザ 5F 中央通路</p> <p>料 金 無料</p> <p>参加人数 ①子ども20名(付添17名) ②子ども19名(付添23名) ③子ども23名(付添25名)(当日受付)</p> <p><TARO 鯉にいどむ！ 2024></p> <p>日 時 4月27日(土)、28日(日)</p>	

	各日①10:00～12:00②13:30～15:30
展示期間	5月3日(木祝)～5月6日(月祝)
内 容	今年で13回目になる恒例イベント。母の塔前広場の展示は、これまでの鯉のぼりを含め、川崎市制100周年と美術館25周年を記念し、125匹が泳ぎ、訪れる人を楽しんでいただいた。
場 所	創作アトリエ、常設展示室、ギャラリースペース、母の塔前広場
料 金	無料(要観覧料)
参加人数	27日 ①12組(子ども11名、大人7名) ②12組(子ども11名、大人9名) 28日 ①12組(子ども12名、大人9名) ②12組(子ども9名、大人9名) (先着順/電話受付)

<みんなでつくろう!こどもの樹>

日 時	5月4日(土祝)、5日(日祝) 各日①10:30～11:30②13:00～16:00
展示期間	5月5日(日祝)～5月19日(日)
内 容	今年で4回目となる、《こどもの樹》の顔で作った塗り絵と自由に描けるイベント。ゴールデンウィーク中の小さい子ども連れのご家族や大人の方にも参加いただいた。
場 所	ギャラリースペース
料 金	無料
参加人数	4日 子ども95名 大人101名 5日 子ども90名 大人104名 合計 390名

<TAROさんと祝おう!記念クイズラリー>

日 時	6月29日(土) 12:30～15:30
内 容	7月1日の川崎市市制100周年記念を祝い、ワークシートのヒントをもとに、作品を見つけ出すクイズラリー。ワークシートはクロスワードパズルになっており、クイズを解くことやワークシートを完成させることを楽しみながら、岡本太郎作品の面白さを味わう様子が見られた。また、幅広い年齢層の方にお楽しみいただいた。
場 所	常設展示室
料 金	無料(要観覧料)
参加人数	172名(当日受付)

<中学生「夏休みの宿題手伝います」ツアー>

日 時	①8月8日(木) ②8月22日(木) 各日とも10:00～11:00
内 容	今年で7年目となる中学生向けの美術館見学ツアー。美術館の構造や役割にも触れ、作品だけでなく美術館自体にも興味・関心を向けることができる内容。友達や家族と一緒に参加したり、一人でじっくりと作品に向き合い鑑賞する様子が見られた。
場 所	常設展示室、企画展示室
対 象	小学生以上
料 金	無料
参加人数	①7名(中学生5名、付添2名) ②4名(中学生2名、付添2名)(当日受付)

<美術館裏探検>

日 時	8月15日(木) ①11:00～11:40 ②13:30～14:10
内 容	普段見ることの出来ないバックヤードの一部を公開する子ども限定のイベント。普段は入れない場所に興味津々子ども達の様子が見られた。気になることを職員にたくさん質問を行う姿が見られた。
場 所	展示室、バックヤード
対 象	小・中学生
料 金	無料
参加人数	①10名(付添1名) ②10名 (先着順/電話受付)

<《ノン》と帰ろう>

日 時	9月22日(日) ①11:00～12:00 ②13:30～14:30 ③14:30～15:30
内 容	今夏の常設展「目もあやなオバケ王国 岡本太郎とオバケ論」にも登場し、《太陽の塔》の地下展示室に世界各国の神々の像とともに展示された《ノン》の紙工作ワークショップ。つくことで深く作品について知ることができたと伝えてくださる方やワークショップ参加後、再度《ノン》の作品を鑑賞される方が多くいた。子どもから大人まで参加された方が笑顔でうれしそうに作品を持ち帰る様子が見られた。
場 所	ガイダンスホール
対 象	どなたでも(小学生以下は要保護者同伴) 各回先着16名
料 金	無料(要観覧料)
参加人数	子ども 30名 大人41名 合計 71名 (当日受付)

<第13回キッズ TARO 展—テーマ「〇〇愛」—>

作品募集期間	10月1日(火)～10月27日(日)*消印有効
展示期間	11月1日(土)～12月1日(日)(予定)
内 容	自由な発想で、独創的な作品を作り続けた岡本太郎。その精神を受け継ぎ、子どもの無邪気で自由な表現の場として、13回目となるキッズ TARO 展を開催する。今年のテーマは「〇〇愛」とし、大好きな太郎作品や好きな物事を描いた作品を募集し、多くの来館者が子ども達の作品を熱心に鑑賞する“愛”溢れる展示になった。
場 所	ギャラリースペース
対 象	中学生以下
作品サイズ	四つ切サイズ(38cm×54cm・縦横自由)以内
応募点数	60点

<みんな生き生き TARO アート鑑賞～認知障がいのある方とご家族編>

日 時	10月2日(水) 10:30～11:30
内 容	認知障がいのある方とご家族のための鑑賞ツアー。少人数で、美術館スタッフと太郎作品を、一緒にゆったりと楽しむ。
場 所	ガイダンスホール・展示室
対 象	認知障がいのある方とご家族・介助者
料 金	無料(要観覧料)

定 員 3 組（電話受付）＊申込なしで未実施

<みんなで描こう！～大好きな太郎作品～>

日 時 10 月 20 日（日）13:30～15:30

内 容 “キッズ TARO 展” の作品を美術館で制作しするワークショップ。展示室を回り、好きな太郎作品について語り、大好きな TARO 作品を描き、みんなで楽しく制作する場を目指す。展示室でのスケッチでは作品と向き合う時間を楽しみ、アトリエでの色彩の時間では、自分の気持ちや思いを表現することに一生懸命になる子ども達の様子があった。

場 所 展示室・創作アトリエ

対 象 中学生以下

料 金 300 円

参加人数 14 名（付添 9 名）（先着順/電話受付）

<パブリックアート描き書き記録マップ配布>

日 時 10 月 30 日（水）～ 11 月 3 日（日）

内 容 開館 25 周年を記念し、美術館開館日である 10 月 30 日より、美術館近郊の野外彫刻作品を見て、スケッチしたりや写真を貼ったりして楽しめる自分だけのオリジナルマップが作れる冊子を配布した。（先着 125 枚）

場 所 展示室内

対 象 どなたでも

料 金 無料（要観覧料）

<みんな生き生き TARO アート鑑賞～視覚障がい（ロービジョン）の方とそのご家族編>

日 時 11 月 9 日（土）①10:30～11:30 ②13:30～14:30

内 容 参加者が岡本太郎作品の世界を味わい、作品を見て、思った事を自由に“生き生き”語り合う場を目指し、様々な人が一緒にアートに親しむプログラ。今回はクラウドファンディングに寄せられた寄付により制作した「立体的な太郎作品紹介カード」の展示や視覚支援機器を用いた鑑賞体験イベントを開催した。

場 所 ガイダンスホール・展示室

対 象 視覚障がいのある方とそのご家族・介助者

料 金 無料（要観覧料）

参加人数 ①4 組 11 名 ②2 組 4 名（先着順/電話受付）

<太郎の世界を大冒険！！～秘宝を開けてめざせ TARO マスター！～>

日 時 11 月 24 日（日）①10:30～11:30 ②13:00～14:00

内 容 毎年受入をしている専修大学が学生向けに行っているキャリア支援の「専修大学問題解決型チャレンジプログラム」で受け入れた学生による謎解きイベント。5 月より美術館で活動を始め、岡本太郎や美術館について考え、展示室内で太郎の考えや作品を取り入れた謎解きゲームを展開した。学生らしい楽しく明るい進行と難解な謎解きに参加者も楽しそうで、参加者への TARO マスターの称号の缶バッジを嬉しそうに受け

	取っている様子があった。
場 所	ガイダンスホール・展示室
対 象	どなたでも *問題レベルは中学生を想定
料 金	無料 (要観覧料)
参加人数	①20名 (子ども11名 大人9名) ②19名 (子ども9名 大人10名) (先着順/電話受付)

<《こどもの樹》塗り絵をして、缶バッジを作ろう！ in Nocty プラザ>

日 時	2月15日(土) ①10:40～(30名) ②12:00～(50名) ③15:00～(20名)
内 容	出張ワークショップ「《こどもの樹》塗り絵をして、缶バッジを作ろう！」を川崎市溝口にあるノクティープラザ5階の連絡通路で行った。今回が初めてのコラボレーション企画となったが大勢の参加者で賑わい、岡本太郎美術館の周知につながった。
場 所	NOCTY 5F 連絡通路
対 象	3歳から小学生以下の子ども (参加条件：保護者の方がNOCTYポイントアプリ会員限定)
料 金	無料
参加人数	子ども78名、大人175名 合計253名(当日受付)

<祝！TARO 生誕祭 114>

日 時	2月24日(月) 9:30～17:00(最終入場 16:30)
内 容	太郎さんは1911年2月26日生まれ。今年は、「祝！TARO 生誕祭 114」として、114歳のお祝いイベントを3つ開催

(1) TARO で彩る一日

内 容	TARO グッズを身に付けて来館された方に、オリジナルの彫刻作品シールをプレゼント。市販のTシャツやバッグ、缶バッジにキーホルダーと、オリジナリティー溢れる手作りTARO グッズを身につけた来館者で館内全体でお祝いムードとなった。
場 所	エントランス 受付
対 象	どなたでも
料 金	無料 (要観覧料)
参加人数	188名

(2) 《犬の植木鉢》の Birthday カードをつくろう！

内 容	太郎の作品《犬の植木鉢》に自分の思いをのせて、「飛び出すバースデーカード」を制作した。親子で一緒に制作を楽しまれる方が多く、出来上がったカードを互いに笑顔で見せ合ったり、制作したカードと一緒に記念写真を撮ったり楽しまれていた。
時 間	10:30～11:30/13:00～15:30
場 所	ギャラリースペース
対 象	どなたでも (小学生3年生以下は要保護者同伴)
定 員	114名
料 金	無料
参加人数	140名(子ども55名 大人85名) (当日受付)

(3)クイズ・太郎さんってこんなひと

《成果と課題、今後の対応》

- ・人気の定例イベントが多くあるが、岡本太郎の理念や展示内容に即した主旨のイベントを心がけ、参加者の関心を掘り下げるような意欲的な企画も実施している。今後も、定例イベントについてもブラッシュアップをしていきながら、さまざまな角度から作品の魅力に気づけるようなイベントを検討する。
- ・今年度は、事前申し込み制でなく当日参加や当日整理券配布のイベントを行い、中学生や高校生、大学生といった層にも参加いただけた。今後もそれぞれの年代に向けた内容を考えながら、イベントの形態を検討していきたい。
- ・今年度の新たな試みとして、認知症の方とご家族向け、さらに視覚障害等、ハンディキャップのある方に対してイベント実施をしているが、参加者募集のハードルの高さも感じている。地域の施設と連携し協力を頂いているが、当館の立地に起因するアクセスの問題は大きく、施設の方や利用者、対象の方々にとって参加しやすいイベントや受け入れの在り方を今後も検討していく必要がある。

【自己評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	定例のイベントに加え、時々の展示内容に即した主旨のイベントを開催することができた。また、外部講師によって参加者の関心を掘り下げるような意欲的な企画も実施している。参加者が自宅で制作して参加する形式の「どこでも TARO アトリエ」と連動させたイベントや、遠方の方も参加できるキッズ TARO 展、館外からの要請を受けての出張イベントなど、美術館の外側からも興味を深めるアウトリーチ的なイベントも続けており、SNS の反応等から、美術館をより身近に感じてもらっている様子があった。ハンディキャップのある方に向けたイベントについては開催の難しさも感じたが、実施できたものは参加者にも大変好評であったことから、調査・研究を行いながら当館に合った実施内容を検討している。
---	---

【外部評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none">・限られた人員ではないかと推察されるが、質の高い内容で極めて積極的に実施されており、「A」以上の評価に値する。・事前申し込みだけでなく、その場で参加できる、また、赤ちゃんから障がいがある人まで幅広く対象者を設定し、限られた人的資源の中で、質量ともに充実したプログラムを行い、「多くの人に開かれた美術館」というイメージを伝えることができていることを評価した。・視覚障害がある方を対象としたプログラムなど、参加人数が少ないものもあるが、行うことに意義や広報効果があることを踏まえ、ぜひ継続してほしいと思う。・地域に根差した美術館としての活動として、館周辺だけでなく、地域の商業施設などでの普及イベントを行っていることは普段美術館になじみのない方々への周知としては効果があると思われる。そのほか多様なプログラムを実施しており、参加者からの意見をフィードバックし、反映させていることは大変評価できる。・きわめて多彩な事業展開で、普及企画担当4名での取り回しは、さぞかしご苦労が多いのではないかと拝察している。普及事業は、生身の人間と相対することで成り立ち、また時代に呼応しなくてはならないことから、人員的にも、予算的にもサステナブルな事業計画を重視していただければと思う。
---	---

6 協働・連携

事業名	協働・連携
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	<p>・本市では、誰もが身近に文化芸術に触れ、参加できる環境（アート・フォー・オール）の実現に向けた取組を推進している。</p> <p>・また、アートは、様々な分野と連携することにより地域の課題解決やまちづくりなど、アートの持つ力が期待されていることから、庁内外の多様な主体との協働、連携により、岡本太郎や作品等を通じ、市民の文化芸術活動を振興するとともにアートの新たな可能性を創造する取組を推進していく。</p>
内容	<p>・多様な主体との協働、連携により、岡本太郎や作品等を活用した鑑賞会やワークショップ等を実施し、誰もが文化芸術に触れる機会を提供しアートを通じたまちづくりを推進する。</p>

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】	
<川崎アートコミュニティ形成プロジェクト「こと！こと？かわさき」基礎講座⑤「みる」>	
日 時	6月9日(日)10:00～15:00
内 容	ことラー向けの基礎講座として対話型鑑賞会等を実施
場 所	ガイダンスホール、常設展示室、企画展示室
対 象	「こと！こと？かわさき」のアートコミュニケーター（ことラー）
料 金	無料
参加人数	30名
<ポタニカルアート作品展>	
主 催	川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
日 時	10月26日(土)～11月4日(月)9:30～16:00
内 容	多摩・麻生植物画同好会メンバーの作品展示。土日祝日にはワークショップを開催
場 所	ガイダンスホール
対 象	どなたでも
料 金	無料
参加人数	482名
<Green TARO Night>	
主 催	川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
日 時	11月16日(土)16:00～20:00
内 容	「母の塔」が輝く一夜限りのスペシャルナイト。音楽や映像、飲食が楽しめるイベント
場 所	「母の塔」前広場
対 象	どなたでも
料 金	無料
参加人数	1,985名

<川崎市市制 100 周年記念 Colors かわさき 2024 展《巡回展》>

主 催	公益財団法人川崎市文化財団
日 時	12 月 11 日 (水)～12 月 22 日 (日)
内 容	作者の障害の有無に捉われず作品の魅力を感じてもらおうことを目指す「Colors かわさき展」の巡回展を開催。本展の中から 15 作品を展示
料 金	無料
場 所	ギャラリースペース

<かわさきシンフォニー・ポップス・ミニコンサート>

日 時	2 月 9 日 (日) 14:00～15:00
内 容	3 月にミュージアム川崎シンフォニーホールで行われる「かわさきシンフォニー・ポップス」関連企画。東京交響楽団メンバーによる弦楽四重奏で、ポップスや岡本太郎が好きだったモーツァルトやジャズの演奏
場 所	ギャラリースペース
対 象	どなたでも
料 金	要観覧料 (椅子席 40 名)
参加人数	120 名

<イノベーションは爆発だ！岡本太郎とディープの冒険>

主 催	Kawasaki-NEDO Innovation Center (K-NIC)
日 時	3 月 16 日 (日) 10:30～12:30
内 容	起業を目指す方等に求められる、物事を多角的に考察し新しい発想を生み出す力を育むため、岡本太郎作品等を活用した対話型鑑賞会を実施
場 所	ガイダンスホール、常設・企画展示室
対 象	テクノロジー分野で起業を志す大学生・大学院生、20 代の方
料 金	無料 (要観覧料)
参加人数	7 名 (事前予約)

【自己評価】 [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な事業との連携等により、情報発信や来館促進等で相乗効果が図られたと考えている。特に、「Green TARO Night」では、「母の塔」に投影された美しい映像をバックに生演奏がされ、日頃見ることができない「母の塔」の姿に多くの方が魅了され、SNS での発信にもつながった。 ・岡本太郎の多才さが、多様な主体や様々な分野との連携等の可能性を秘めていることから、今後とも効率的、効果的な取組によりアートを通じたまちづくりを推進していく必要があると考えている。
---	--

【外部評価】 [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地上のデメリットを補う上で効果を上げていると思う。
---	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・「アート・フォー・オール」という川崎市の取組と連動したプログラムを「協働・連携」として独立した領域として立ち上げ、視覚芸術だけでなく、幅広い芸術文化に接続をしているところに、美術館の新しいチャレンジを見ることができる。また「ことラー」の今後の活動にも期待がもてる。3/16に実施される予定のK-NIC主催の大学・大学院生向けのプログラムに興味を惹かれた。その成果についてまた伺いたい。 ・川崎市市制100周年の記念の年ということもあり、今年度はこの記念事業での連携が多く見られた。地域に限らず、様々な団体と連携し、一層の魅力発信を努めていただきたい。 ・川崎市という広大な自治体に設置されている美術館が地域との協働、連携を図っていくことは、とても大変なことであろうと思う。行政サイドからの要望や期待なども絡むことから、適切な事業配分が必要になるが、地域との結びつき、また社会状況から生じるニーズに継続して対応できるよう、工夫を重ねていただきたい。
--	--

7 広報活動

事業名	広報活動
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の広報ツール（広報誌「TARO ニュース」・美術館HP・オンラインコンテンツ・公式SNS等）を活用し、美術館従来の魅力の発信・広報に努める。 ・情報のリリース機会や展覧会内容にあわせた広報手段を検討し、より効果的な広報活動を行なう。
内容	<p>【広報活動】</p> <p>●展覧会広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会プレスリリース作成・発信による新聞・雑誌・WEBへの告知（郵送・メール） ・展覧会プレス内覧会の実施 ・展覧会会期中の主要マスコミへの掲載依頼、取材受付・対応 ・展覧会ポスター・チラシを他美術館等関連施設へ配布・掲示 ・小田急線各駅・東急線各駅・商店街・緑地内へのポスター・チラシ配布・掲出 ・グルメ情報サイト「食べログ」内バナー広告掲出 ・TOKYO MX「はじめての美術館」内CM掲出 ・YouTube内CM掲出 ・近隣大学へのポスター・チラシ配架 ・近隣書店へのポスター・チラシ配架 ・武蔵小杉エリアマネージメント デジタルサイネージへのポスター掲出 ・本庁舎25階展望ロビーでのパネル展示 ・ノクティプラザ連絡通路内パネル展示 制作・掲出 ・ノクティプラザへのポスター・チラシ配架 ・ノクティプラザ屋外ビジョン動画掲出 ・市アゼリア広報コーナー展示の制作・掲出 ・市ホームページビジュアルエリア掲出 ・川崎駅アゼリアビジョン動画掲出

<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市河川情報掲示板動画掲出 ・川崎駅東口広告塔デジタルサイネージ掲出 ・川崎市内施設情報掲示板ビジュアル掲出 ・かわさき FM・ラジオ CM の収録および掲出 ●定型広報 <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「TARO ニュース」刊行 ・美術館情報のマスコミへの掲載依頼、取材受付・対応 ・館内ツールの活用による広報（美術館 HP、SNS 等、外部メディアページへの登録・配信） ※在宅コンテンツ（どこでも TARO アトリエ）の配信・利用促進（美術館 HP） ※第 28 回 岡本太郎現代芸術賞 作品募集要項・申込受付等、作成・掲出（美術館 HP）
--

【実施状況・成果・課題と今後の課題】
<ul style="list-style-type: none"> ・「生命の交歓 岡本太郎の食」展では、会期がゴールデンウィークにかかることから、来館促進策として開幕直前～ゴールデンウィーク期間に有料広告を仕掛けた。関連イベント「パイラ人がやって来る?!」「TARO アフタヌーンティー」について、いち早く X に投稿し、それぞれ 325,000imp、181,000imp を獲得した。外部メディアにもアプローチを仕掛け、『衛星劇場』の「宇宙人東京に現わる」の放送日に合わせて相互広報を打診、実施した。 ・「目もあやなオバケ王国 岡本太郎のオバケ論」展では、他のミュージアムでも“オバケ”をテーマにした展覧会が複数開催時されているなど、キャッチーで話題性のあるテーマであることに着目し、開幕前から X で告知、41,000 超の imp を獲得し、異例の反響を収穫した。テレビ・ラジオ・新聞などにも多数取材いただいた。 ・「芸術は自由の実験室一夏のアートキャンプ」展のプレス内覧会実施において取材メディアの参加招集方法を工夫し、メールリリースに限り、開催 1 週間前にリマインドをかけたところ、前日までに追加で 5 社の媒体から参加連絡を受けた。次回展以降も継続して再リリースを実施したところ、プレス内覧会の出席媒体数を上げることができた。 ・「岡本太郎に挑む 浅井裕介・福田美蘭」展では、現代作家の作品展示ということから美術関心層をターゲットとし、テレビ・東京 MX 「はじめての美術館」において CM を 3 回放送、同時に YouTube 内でも、動画閲覧者向けに 10 万回再生分の CM を仕掛けた。当該 CM は広告でありながら高評価 90%、視聴完了率 114% と満足度の高いコンテンツであったほか、館内運用の X の投稿とも連携し、ホームページアクセス数を伸ばし、効果的な広報を実施することができた。 ・常設展の取材依頼のあった媒体に来館時間の調整を提案し、プレス内覧会への参加を誘導、常設展と合わせて企画展の取材・掲載をしていただいた。 ・過去に取材対応経験のあるメディアから再度取材依頼をいただいた。テレビ朝日「グッド！モーニング」については 2023 年秋期から連続して 3 回も取材いただいた。テレビメディアにてこのような関係を構築できたことは貴重と思われる。 ・25 周年記念展会期中には NHK 「日曜美術館」、テレビ朝日「じゅん散歩」、テレビ東京「スクール革命！」など短時間に多数の番組で紹介いただいた。特にテレビ朝日「じゅん散歩」、テレビ東京「スクール革命！」は複数回の撮影に応じたが当初よりも長尺での紹介をいただける結果となった。 ・リクルート社刊行の情報誌「SUUMO 新築マンション」の取材では、取材後に急遽刊行紙の表紙画像として採用いただき、発行部数・設置場所の広いメディア協力を得る好機会となった。

・今年で開館 25 周年を迎えるため、美術館情報の掲載依頼のあった媒体については積極的に 25 周年の情報を掲載いただくように提案し、25 周年記念フラッグを目印に広報露出機会を増やした。また、記念装飾として美術館エントランスやアトリエの窓に美術館のフラッグ約 60 枚と 25 周年記念の文字掲出を行った。その後のテレビ撮影や広報媒体の掲載など、25 周年記念のビジュアルとして活用し、周年記念を PR することができた。

・今年度から近隣施設・溝の口駅前のノクティプラザに広報協力をいただき、館内の連絡通路でのパネル展示や屋外ビジョンでの CM 放送の実施など露出機会を増やした。

・ホームページコンテンツ「どこでも TARO アトリエ」について文部科学省運営サイト「どこでも学び隊」にて紹介いただき、当館の該当ページのアクセス数を伸ばした。

・美術館広報誌「TARO ニュース」について配架先の増加や需要拡大に伴い、開館 25 周年記念の表紙を飾る 87 号以降、1,000 部（従来発行部数の 20%）増刷を開始、ホームページに PDF 版データを掲出し、媒体認知を高めた。88 号についても開館 25 周年記念展を取り上げることから、2 人展である展覧会の情報を見開きで見られる紙面にする等の工夫をした。

【SNS 年間】※2 月 1 日時点

	件数(年間)	リーチ数(月平均)	フォロワー数
Facebook	31	1,146	1,550

	件数(年間)	インプレッション数 (月平均)	フォロワー数
X	547	—	12,607

	件数(年間)	リーチ数(月平均)	フォロワー数
Instagram	100	6,083	7,257

【自己評価】 [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>地域施設や外部媒体と連携しながら限りある広告費の中で新たな広報手段を開拓した。広告費については 25 周年記念展をメインに投じ、効果的な広告を多数打つことができた。ホームページ・SNS・広報誌についても展覧会や時期を考慮し、広域な情報発信を目指した。今後は展覧会開幕前の広報や、展覧会ごとに有効な広告費の活用方法を研究・検討し、美術館の魅力発信に努める。</p>
---	---

【外部評価】 [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総じて効果的な広報が実施されている。「A」以上の評価に値する。一例として、展覧会の PR 動画はセンス・テンポともに良く、展覧会に対して好感を持ち、興味を惹かれる良いきっかけとなっており、若い層にも訴求すると考えられる。 ・ 広報する展覧会やプログラムとそのターゲットを丁寧に分析し、フレキシブルに戦略を立てて、メディアを選択・活用し、多くの具体的な成果を上げている点を評価
---	--

	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報（基本、無料）と広告（基本、有料。費用対効果の算出）の実績が資料の中で混在しているが、分けて記載・分析したほうが、解像度が上がり、より効果的な戦略を設定でき、評価もしやすくなるのではないかと思う。 ・ ホームページ、SNS、広報誌等の計画的、戦略的な広報によって大きな成果を挙げられていることは高く評価できる一方、現状、担当がひとりであるとのことで、かなりの仕事量による個人への仕事負担が大きいことが懸念される。安定した継続のため増員を検討されたい。 ・ Facebook、Instagram、x など、さまざまな SNS が広報の大きな戦力になっていることは事実で、また事業の認知経路の割合も高まっている。また、災害時、緊急時などの館としての情報発信についても、SNS の活用、館ウェブサイトの強化などが重要度を増している。広報事業の運用は不可欠ながら、これに従事するスタッフの拡充を行う必要性を感じた。 ・ 幅広くきめ細かく実施されている。
--	--

8 施設・設備の整備

事業名	施設・設備の整備
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	開館から 25 年が経過し、建物・設備が老朽化しており、施設の長寿命化及び作品の保全、市民の施設利用の利便性の向上、安全・安心の確保を図るため施設の計画的な更新・補修を行う。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空気熱源ヒートポンプ設備整備 ・ ガイダンスホール照明設備整備 ・ 非常用自家発電設備整備 ・ コンデンサ、リアクトル設備整備 ・ 空気調和機補修等工事 ・ ギャラリーほか LED 照明器具補修工事 ・ 光庭内側シールやり替え等工事

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に引き続き館内照明の LED 化を進め、消費電力、管球交換等にかかるコストの削減に繋げることができた。また、設備等の経年劣化に伴う緊急対応案件が増えているが、美術館運営に支障をきたすことなく迅速に実施することができた。 ・ 引き続き計画的な整備を行うとともに、緊急対応案件にも館内環境に影響を及ぼさないよう適切に実施していく必要がある。併せて、今年度着手した防水改修の取組を着実に進めていく必要がある。

【自己評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	<p>【評価の理由】</p> <p>当初予定していた案件は概ね実施できた。</p>
----------	--

	緊急対応案件にも美術館運営に支障をきたすことなく迅速に実施した。 老朽化した施設の速やかな改修に向け、防水改修設計に着手した。
--	--

【外部評価】[A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

[委員記入欄]

A	<p>*評価できる点や課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館を支える基本的かつ重要な業務として、着実に実施されている。 ・年度当初に予定していなかった緊急案件にも適切に対応し、作品および来館者の安全を第一に施設の課題点や老朽化などに対して適切に対応している点を評価した。 ・自然環境が豊かな場所で開館から25年が経過しているということで、設備、建築においては不具合が生じているとのことだが、迅速な対応によって美術館運営に支障が出ていないことを評価する。 ・築年数の経過とともに、老朽化が進むが、とりわけ美術館施設が内包する内部環境の適切な管理は、非常に煩雑である。中長期スパンでの改修計画、また、環境問題などを加味した改修など、建物を安全に維持するための専門性の高い、日常的管理体制が不可欠である。また、関連して震災などの災害時、どのような形で美術館が対応していくかという具体的計画の策定も必要と感じた。 ・防災の視点が不可欠になってきたと思う。
---	---